

科目名	農学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久保 康之, 石川 幸男, 井上 亮, 奥本 裕, 小野 雅之, 小保方 潤一, 川崎 通夫, 喜多 大三, 北川 太一, 黒川 通典, 田中 樹, 寺林 敏, 豊原 治彦, 吉井 英文, 和田 大
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAE1001a0		

授業概要・目的	自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の衣食住を支えてきた「農学」は、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。「農学」には持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、課題を見出し対応するミッションがある。「農学」は生命を支える食料の科学であり、生命科学とも位置付けられる。さらには、「農学」は生産、加工、流通の6次産業に栄養を加えた24次産業的視点で捉えることができる。農と食をとりまく環境は大きく変化し、「農学」における栄養科学・健康科学の重要性も認識されている。本講義はこうした問題意識からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により、受講者が「農学」とは何かを理解するとともに、「農学」のミッションに対応する「使命感」、「農学」の視点がもたらす「俯瞰力」、「実践力」に関心をもち、主体的に課題を意識することができることを目的とする。
到達目標	① 「農学」が関わる領域について、関心をもつことができる。 ② 「農学」が関わる領域の課題を理解し、主体的に捉えることができる。 ③ 「農学」が関わる領域を学び、専門分野で何を学ぶかという動機や問題意識をもつことができる。
授業方法と留意点	授業方法は、遠隔授業にて講義を行い、パワーポイントを適宜使用する。また、パワーポイント資料を配布する。
科目学習の効果 (資格)	摂南大学農学部の学びの基本となり、「農学」の全体像を理解するための基礎となる科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	農学を大学で学ぶとは	「農学」は、自然を改変しながら生物資源を活かし、人間の諸活動を支える根幹的な学問である。持続可能で豊かな人間社会と地球環境の創出を目指して、私たちは何を学び、何をすべきか、「農学」の世界観を俯瞰し、学修する。(担当:久保康之)	事前: シラバスの理解 事後: レポートの提出
2	農学と社会	「農学」は、安全な食料生産と食料の安定供給、自然環境の保全、食を取り巻く多様化・複雑化する社会への対応、新しい作物生産の場とその生産技術の開発など、社会からの求めに応え、解決する使命を担っている。「農学」が社会とのかかわりの中で、いかなる研究が社会に貢献してきたか、と同時に「農学」の発展と可能性について学修する。(担当: 寺林 敏)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
3	農業生産技術の進歩	農業生産技術の進歩は、人口増加、自然環境変動、および、社会変化に伴う農業生産課題を解決していく上で重要な要素である。フィールド栽培、施設園芸、植物工場、および、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)を活用したスマート農業などに関する農業生産技術の進展について学修する。(担当: 川崎 通夫)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
4	国際農業と開発援助	世界の農業の多様性を踏まえ、発展途上国における農業開発と、それに対する援助のあり方を学修する。(担当: 田中 樹)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
5	農業とケミカルエコロジー	すべての生物は、同種または他種の他個体と相互作用を及ぼしあいながら生きており、この相互作用の仲介役として化学物質が大きな働きをしている。植物-昆虫、昆虫-昆虫間の相互作用における化学物質の働きについて、その害虫管理への応用を含めて概説する。(担当: 石川 幸男)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
6	作物改良のための情報科学	現代の農業は近代育種が改良してきた品種を基盤に成立している。近年のゲノム解読技術と画像解析技術の急速な発展は、育種におけるDNA情報解析と高速フェノタイピングの利用を強く後押ししている。育種の現場で利用が進められているゲノム情報と圃場データ処理を利用する情報科学について概説する。(担当: 奥本 裕)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
7	ゲノムと農学・生命科学	生物の設計図を読みたい、というのは生物学者の長年の夢だったが、ゲノムの解読技術の飛躍的な発展によって、それは現実のものとなりつつある。ゲノム科学の急速な発展が、農学・生命科学や私たちの生活にどのような影響を与えつつあるのかを概説する。(担当: 小保方 潤一)	事前: 事前学習課題の学習 事後: レポートの提出	
8	動物生命科学の新展開	動物を対象とした研究は、農学において	事前: 事前学習課題の学習	

			は産業動物の生産性向上のため、食品、医療においてはヒトの健康維持・増進、疾病予防・治療のために行われる。これらの動物を対象とした研究には遵守すべきルールや法令が存在する。これら動物を対象とした研究に関する現状を学修する。(担当：井上 亮)	事後：レポートの提出
	9	地球環境と海洋科学	水産業は一次産業の中でも特に天然依存性が高いことから、資源維持のために健全な海洋環境の保全が必須である。最新の増養殖技術の活用も含め、地球環境の保全と海洋科学の進展について学修する。(担当：豊原 治彦)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	10	食品科学と農業	農林漁業者（1次産業）が生産する農水産物の元々持っている価値をさらに高め農林水産業を活性化させるためには、食品加工（2次産業）は必須の技術である。最新の食品加工にかかわる食品科学技術の進展について学修する。(担当：吉井 英文)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	11	食文化と多様性	日本の食文化は大きな変革期にきており、食生活の大部分を外食産業に依存する家庭が急増している。本来、日本の伝統的食文化である「お茶」の歴史、伝統および特質について学修する。(担当：喜多 大三)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	12	微生物と食品	東洋、西洋を問わず、食品製造に微生物を利用することは長く行われてきた。農産物の2次加工としての微生物利用について概説する。(担当：和田 大)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	13	食栄養科学と健康	現代の栄養事情は欠乏と過剰の二極化といわれている。社会の仕組みが複雑になっている今、社会のあらゆる側面を視野に入れながら、人間栄養学の観点から健康問題を考える。(担当：黒川 通典)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	14	食品産業の役割とこれからの方向	消費者への食料供給において重要な役割を担う食品産業、特に食品流通業を取り上げ、その役割とこれからの展開方向を学修する。(担当：小野 雅之)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
	15	これからの食と農を考える	今日の食と農の状況を踏まえながら、これからの食（消費者、都市）と農（生産者、農山漁村）をつなぐ共生のあり方とその方向を考える。(担当：北川 太一)	事前：事前学習課題の学習 事後：レポートの提出
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義内容に関する資料を配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	農学が世界を救う！ 食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦	生源寺眞一・太田實行・安田弘法 編著	岩波ジュニア新書
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	事前課題（30%）、授業中の課題（40%）、事後課題（30%）で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	植物病理学研究室（久保）、応用昆虫学研究室（石川）、動物機能科学研究室（井上）、植物遺伝育種科学研究室（奥本）、食料・農産物市場研究室（小野）、ゲノム生物学研究室（小保方）、作物科学研究室（川崎）、栄養薬理学研究室（喜多）、食農共生研究室（北川）、公衆栄養学研究室（黒川）、環境農学研究室（田中）、園芸科学研究室（寺林）、海洋生物学研究室（豊原）、食品加工学研究室（吉井）、応用微生物学研究室（和田）			
備考				

科目名	農学基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar in Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	寺林 敏, 川崎 通夫, 北村 祐人, 佐野 修司, 高木 大輔, 山川 武夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OAE1002a0		

授業概要・目的	福井県と三重県にある農業体験施設を利用し、2日間で演習を行う。主に、我が国のイネ生産と消費の現状、水田の構造、稲作を成立させる農業技術並びに自然環境要因、水田の多面的価値、稲作文化等について講義する。実習内容として、春期の田植えと秋期の稲刈りを行う。日本の主食であるコメの栽培を学び、イネ栽培を体験することで、水田の構造、日本で水田稲作が成立する要因、稲という植物の生育特性を深く理解し、我が国における今後の稲作の在り方について学ぶことを目的とする。
到達目標	① 日本の地形・気象条件と稲作との関係を説明できる。 ② 稲作における種々作業の必要性、意義、効果を理解し、説明できる。 ③ イネという作物の生理・生態的、形態的特性を説明できる。 ④ 農業生産に及ぼす気象、土壌、病害虫、雑草などの環境要因の影響について知り、説明できる。
授業方法と留意点	5回の講義と枚方キャンパスの農学部附属農場での実習を行う。講義は遠隔講義とする。実習は模擬水田（コンテナ利用）を使い、苗の移植、生育観察そして収穫の3回とする。9月以降は野菜栽培の実習を2回行う。実習は3密を可能な限り回避するよう、1回の実習時間における学生数の半減、少人数グループ編成でおこなう。

科目学習の効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説</td> <td>事前：次回実習内容の確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>春合宿</td> <td>講義（移動中）日本のコメ生産および消費状況について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>春合宿</td> <td>講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>春合宿</td> <td>実習 田植え実習</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>春合宿</td> <td>討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」（年ごとに変更）</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>春合宿</td> <td>実習 野菜園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>春合宿</td> <td>見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>秋合宿</td> <td>講義（移動中）コメの稈性と糯性について</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 稲刈り はさ掛け</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>秋合宿</td> <td>討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」（年ごとに変更）</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 秋野菜の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>秋合宿</td> <td>実習 果樹園の管理</td> <td>事前：講義及び実習内容の予習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>水田の多面的機能と価値について</td> <td>事後：レポートの提出</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説	事前：次回実習内容の確認	2	春合宿	講義（移動中）日本のコメ生産および消費状況について	事前：講義及び実習内容の予習	3	春合宿	講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容	事前：講義及び実習内容の予習	4	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	5	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習	6	春合宿	討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」（年ごとに変更）	事後：レポートの提出	7	春合宿	実習 野菜園の管理	事前：講義及び実習内容の予習	8	春合宿	見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる	事後：レポートの提出	9	秋合宿	講義（移動中）コメの稈性と糯性について	事前：講義及び実習内容の予習	10	秋合宿	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習	11	秋合宿	実習 稲刈り はさ掛け	事前：講義及び実習内容の予習	12	秋合宿	討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」（年ごとに変更）	事後：レポートの提出	13	秋合宿	実習 秋野菜の管理	事前：講義及び実習内容の予習	14	秋合宿	実習 果樹園の管理	事前：講義及び実習内容の予習	15	まとめ	水田の多面的機能と価値について	事後：レポートの提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	ガイダンス	本演習の内容と目的の説明 日本の稲作の歴史、栽培品種、栽培理論、稲作文化等について概説	事前：次回実習内容の確認																																																														
2	春合宿	講義（移動中）日本のコメ生産および消費状況について	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
3	春合宿	講義 訪問施設の農業生産、人材育成等の業務内容	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
4	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
5	春合宿	実習 田植え実習	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
6	春合宿	討論会 テーマ「コメの消費量を増やすには」（年ごとに変更）	事後：レポートの提出																																																														
7	春合宿	実習 野菜園の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
8	春合宿	見学・研修 周辺地域の農村景観と農村社会・稲作文化に触れる	事後：レポートの提出																																																														
9	秋合宿	講義（移動中）コメの稈性と糯性について	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
10	秋合宿	実習 稲刈り	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
11	秋合宿	実習 稲刈り はさ掛け	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
12	秋合宿	討論会 テーマ「我が家の雑煮とお餅について」（年ごとに変更）	事後：レポートの提出																																																														
13	秋合宿	実習 秋野菜の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
14	秋合宿	実習 果樹園の管理	事前：講義及び実習内容の予習																																																														
15	まとめ	水田の多面的機能と価値について	事後：レポートの提出																																																														

実務経験	
関連科目	土壌学や植物栄養学の学習につながる内容を含んでいる。

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する																
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	別途、指示する																
2																	
3																	

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート (100%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生への メッセージ	実習を通して、作物を栽培するための準備、管理方法、収穫がどのように行われているかを体感してください。また、作物栽培の楽しさと大変さを体験してください。
担当者の 研究室等	園芸科学研究室 (寺林、北村)、作物科学研究室 (川崎)、生産生態基盤学研究室 (山川、佐野)
備考	

科目名	食農ビジネス学概論	科目名 (英文)	Introduction to Agri-Food Business
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之、浦出 俊和、北川 太一、成 蒼政、副島 久実、田中 樹、谷口 葉子、戴 容泰思、中塚 華奈、濱田 英嗣、柳村 俊介、吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1008a0		

授業概要・目的
食農ビジネス学とは新しい学問領域であり、他の大学にはない本学に独自の領域である。また、食農ビジネス学には多様な専門分野が含まれる。したがって、これから食農ビジネス学科で学ぶべき課題を見だし、主体的に取り組むうえで、まず食農ビジネス学とはどのような専門分野から成り立っているのかを理解する必要がある。本講義では、食農ビジネス学科の主な専門分野からテーマを設定し、オムニバス形式の講義により食農ビジネス学とは何かを理解し、主体的に取り組もうとする課題を見いだせるようになることを目的として開講する。教員の中には中央官庁で長く農林水産政策に携わった経験を持つ者や農漁業界新聞の記者の経験者等もあり、授業ではそれらの経験を踏まえた事例紹介などを取り入れる。

到達目標
① 食農ビジネス学に関心を持つことができる。
② 食農ビジネス学で何を学ぶかを理解することができる。
③ 食農ビジネス学が関わる領域の課題を理解し、これからの勉学・研究のための問題意識を持つことができる。

授業方法と留意点
遠隔授業で実施する。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	食農ビジネス学を学ぶために	科目全体のガイダンス、食農ビジネス学の目的と専門領域など。(担当：小野雅之)	事前：シラバスの理解 事後：講義内容の確認
2	食と農の変化と今日の姿	食と農がどのように変化してきたのかを概説したうえで、今日の食と農の姿について講義する。(担当：小野雅之)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
3	わが国と世界の食料需給の農産物貿易	わが国と世界の食料需給と農産物貿易の現状と課題について講義する。(担当：吉井邦恒)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
4	農業経営の発展方向	わが国の農業と農業経営の動向を踏まえて、今後の農業経営の発展方向について講義する。(担当：柳村俊介)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
5	農の6次産業化	農業・農村の活性化の方向として期待されている6次産業化の意義と課題について講義する。(担当：成蒼政)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
6	地域のマネジメント	農村地域が抱える諸問題と、その解決をめざす取り組みについて講義する。(担当：浦出俊和)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
7	フードシステムと食品産業	フードシステムの全体像と、構成する産業の相互関係について講義する。(担当：濱田英嗣)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
8	農畜産物の流通	農畜産物の流通のしくみと課題について講義する。(担当：戴容泰思)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
9	水産物の流通	水産物の流通のしくみと課題について講義する。(担当：副島久実)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
10	農水産物のマーケティング	マーケティングの理論と農水産物への応用について講義する。(担当：副島久実)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
11	食品の表示と認証	食品表示・認証のしくみと意義について講義する。(担当：中塚華奈)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
12	農業と環境・生態系	農業と環境・生態系の関わりについて講義する。(担当：田中樹)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
13	循環型農業の理念とフードシステム	持続可能性を追求する循環型農業の理念やそのフードシステムについて講義する。(担当：谷口葉子)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
14	都市と農業	都市と農業の関係と、その今後のあり方について講義する。(担当：中塚華奈)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー
15	協同組合の理念と役割	食(消費者、都市)と農(生産者、農山漁村)を繋ぐ共生に向けた協同組合の理念と実践について講義する。(担当：北川太一)	事前：学習範囲の予習 事後：リアクションペーパー

実務経験

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	別途、指示する		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版 キーワードで読み解く現代農業と食料・環境	小池恒男・新山陽子・秋津元輝編	昭和堂
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー（授業内容の事後学習をまとめたレポート）70%と総合レポート30%で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室（小野）、地域マネジメント研究室（浦出）、食農共生研究室（北川）、農業経済学研究室（成）、農水産物・食品マーケティング研究室（副島）、環境農学研究室（田中）、持続型フードシステム研究室（谷口）、食品流通研究室（戴）、食農教育研究室（中塚）、食品産業研究室（濱田）、農業経営学研究室（柳村）、食料・農業政策学研究室（吉井）
備考	

科目名	食と農の倫理	科目名 (英文)	Food and Agricultural Ethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之・谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1009a0		

授業概要・目的	食と農をめぐる様々な問題が存在するなかで、その解決に向けた行動規範として、食と農の倫理がある。これは、食（消費者）と農（生産者・供給者）の双方の倫理的な行動によって、問題の解決につなげようとするものである。本講義では、食と農をめぐる諸問題の所在を理解したうえで、食と農の倫理の思想と理念への認識を深めるとともに、その視点から課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることが目的とする。
到達目標	① 食と農を取り巻く諸問題を理解することができる。 ② 食と農を取り巻く諸問題に対する倫理と思想を理解することができる。 ③ 課題の解決・緩和のための取り組みや制度を知ることができる。
授業方法と留意点	遠隔授業で実施する。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	SDGs と倫理的消費	SDG s と倫理的消費の考え方を学ぶ。(担当:小野雅之)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
3	食料分配の不均衡と食への権利	世界的な食料分配の不均衡について食料安全保障の観点より理解し、食への権利という考え方を学ぶ。(担当:小野雅之)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
4	食品ロスの削減	食品ロスをめぐる状況と削減に向けた取り組みを理解する。(担当:小野雅之)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
5	食料アクセス問題	食料への社会的・経済的なアクセス問題とその解消方法について理解する。(担当:小野雅之)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
6	企業の倫理とコンプライアンス	企業の CSR 活動や、食品表示などの食にまつわる法規制へのコンプライアンス向上に向けた取り組みを理解する。(担当:小野雅之)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
7	ソーシャルビジネスと CSV	社会的課題の解決を目的とする事業のあり方について理解する。(担当:小野雅之)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
8	農福連携と社会的包摂	就労支援の福祉サービスと農業との連携を通して展開される社会的包摂の取り組みについて学ぶ。(担当:小野雅之)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
9	寄付文化と応援消費	寄付行動の動向と災害時の応援消費を始めとするエシカル消費について学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
10	ローカルフードシステム	食品流通の広域性にまつわる諸問題とローカルフードの取り組みについて学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
11	スローフード	食文化と食の多様性の保全について学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
12	食と持続可能性	近代的な食料生産システムがもたらしてきた環境面への影響やその緩和を目指した取り組みについて学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
13	アニマルウェルフェア	肉食の是非をめぐる議論や動物の福祉を守るための取り組みについて学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
14	公正と社会正義	農家や労働者の福祉の改善を目指したフェアトレードの取り組みについて学ぶ。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習
15	食のオルタナティブ運動	近代的な農業・食料システムに代わる新しい食のあり方について総括する。(担当:谷口葉子)	事前:配布プリントの予習 事後:小テストの復習

実務経験

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	シビック・アグリカルチャー ～食と農を地域に取り戻す～	トーマス・ライソン	農林統計出版
3	食の人権	伊藤恭彦編	リベルタス出版

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各回の授業で実施する学習確認小レポート (70%) と期末レポート (30%) で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室 (小野)、持続型フードシステム研究室 (谷口)
備考	

科目名	基礎経済学	科目名 (英文)	Basic Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	成 善政
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1010a0		

授業概要・目的	本講義は、食農ビジネス学科において、専門的研究を行うための基礎系科目として位置づけられた必修科目である。「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の事前基礎科目として本講義では、まず経済と経済学の基礎理論(原理と手法など)について講義を行う。その上で、我々を取り巻く現実の複雑な経済現象とさまざまな経済問題などについての分析と応用の能力を農学の視点から養う。また、現代経済における経済主体、すなわち家計、企業、そして政府の意思決定(経済活動)と役割に関する理論と手法、および国際経済学の理論と実態についても講義する。授業担当者は、農漁業界新聞の記者の経験を持ち、授業ではそれらの経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① 経済学の基礎理論(原理と分析手法など)について理解できる。 ② 経済理論と現実の経済との関係(関連)について理解できる。すなわち、理論と経済モデルの重要性と現実経済への適用・説明の難しさを理解できる。 ③ これらを通じて、現実のさまざまな経済問題(地域、国内、世界)を分析、応用・考察する能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	この科目はウェブによる遠隔形式の授業を行います。主に、Microsoft Teams を用いて、できる限りリアルタイム形式の講義を行います。もちろん、一部の講義については、録画した講義資料をアップロードし、学習してもらいます。講義資料はできる限り講義日の1週間前までにTeamsなどにアップロードします。講義の理解度ををはかるために、Teamsを用いて、小テスト(数回)も実施する。シラバスを常に確認し、定められた事前・事後学習を必ず行うこと。受講生は必ず、講義日の日本経済新聞を読み(ウェブサイトで読める)、日経平均株価と米ドルに対する日本円の為替レートを調べる(講義時間中に確認を行う)。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション(高度資本主義社会と経済問題)	授業概要、学習目標、授業の進め方のほか、経済と経済学の定義、資本主義経済と民間部門、公共部門、経済主体と経済活動、経済学の方法、効率と公平、資源の希少性などの経済問題などについて講義する。	事前:シラバスの理解と、資本主義経済の特徴について調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
2	経済学の基本原理	経済主体のトレードオフ、機会費用の概念、限界原理、インセンティブ、交易と市場の役割、政府の機能、生産性、インフレーション、失業などについて講義する。	事前:経済用語に馴染めるためにも、テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)	
3	需要と供給理論(Ⅰ):市場の機能	市場と競争、需要の作用(需要表、需要曲線など)、供給の作用(供給曲線、市場の供給など)、市場の均衡などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)	
4	需要と供給理論(Ⅱ):市場と厚生	市場における需要と供給の弾力性(価格弾力性、所得弾力性、交差弾力性)、そして弾力性の応用などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)	
5	消費の経済理論	消費者余剰、市場の効率性と市場の失敗、そして課税の費用など、消費経済学について講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)	
6	生産の経済理論	生産と費用、生産関数、短期と長期の費用など、企業経済学について講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)	
7	税と効率・経済の公平、厚生経済理論	死荷重、税と効率、税と公平、効率と公平のトレードオフ、外部性の概念、厚生経済学、外部性と市場の非効率性、外部性に対する公共政策、コースの定理などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)	
8	中間テストと解説によるまとめ	講義の理解度ををはかるための中間テストの実施とその解説などを行う。テストの時間は45分、残りは解説による今までの講義のまとめなどを行う。	事前:今までの講義の内容をテキストと配布資料などでしっかり理解し、中間テストに備えること。 事後:中間テストの内容をテキストや解説などで完全に理解すること。(4時間)	
9	国民所得の測定	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDPの構成要素、名目GDPと実質GDPなどについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)	
10	生計費の測定	消費者物価指数(計算方法、生計費測定の諸問題、バスケットの中身など)、生産者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変数の補正(異なる時点の金額、物価スライド制、実質利率と名目利率)などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)	
11	貯蓄、投資と金融システム	短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:テキストの関連章のキーワードの意味を調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)	
12	総需要と総供給(IS-LM分析)	IS-LMモデル分析、有効需要の原理、短期と長期の経済変動、経済変動に対する新古典派経済学の仮説、総需要と総供給のモデル、経済変動の原因などについて講義する。	事前:本講義において、最も難解な部分であるので、キーワードの意味をしっかりと調べる。 事後:配布資料と今回の講義内容について熟知することと、テキストの関連章の応用問題を解くこと。(4時間)	

	13	生産と成長	主要国の経済成長、生産性の役割と決定要因、生産関数、経済成長と公共政策、長期的成長の重要性などについて講義する。	事前：生産と成長に関するキーワードの意味を調べる。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
	14	国際経済理論	生産可能性の原理、比較優位と絶対優位の理論、比較優位と交易、比較優位の応用例、国際貿易理論などについて講義する。	事前：国際経済に関するキーワードの意味を調べる。 事後：配布資料と今回の講義内容について熟知すること。(4時間)
	15	総まとめと定期試験対策	講義の総まとめ、現代経済学の潮流、経済理論で解決できない経済問題、そして、定期期末試験の対策などについて講義する。	事前：各章の要約を読んで、しっかり理解すること。 事後：総まとめの資料を熟知することで、しっかり期末試験の準備をすること。(4時間)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義 基礎経済学	成 政政	現代図書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門経済学	伊藤 元重	日本評論社
	2	経済学	山田 久	実業出版
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期期末試験(20%)、レポート3回(60%)、数回実施する小テスト(20%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この科目は食農ビジネス学を勉強していくための最も基礎的な必須科目であります。積極的な姿勢で、講義に臨み、Teams などを通じて質疑・応答にも積極的に参加していただきたい。大変だろうと思いますが、負けずに頑張りましょう。			
担当者の 研究室等 備考	農業経済学研究室(8号館314研究室)			

科目名	アグロ・エコロジー論	科目名 (英文)	Agro-ecology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1011a0		

授業概要・目的	人びとの暮らしを支える農業（農耕、牧畜、狩猟採集、林業、漁業などを幅広く含む生業）は、それぞれの地域の気候や生態系および社会・経済・文化との密接な関わりの中で成立している。また、「風土」という言葉があるように、私たちが親近感（安らぎ、美しさなど）を感じる景観や生態系は、農業などの暮らしの営みのなかで形づくられてきた。本授業では、日本国内や海外の幾つかの地域の農業を参照して、それらと気候や資源・生態系（地形、植生、土壌など）および人びとによる働きかけとの関係を理解する。
到達目標	① 自然生態系と農業生態系の定義、類型、特徴を理解する。 ② 国内外のさまざまな生態環境や人間活動（農業や牧畜などの生業）との関わりとその総体である「風土」の成り立ちを知る。 ③ 現代社会が直面する諸問題を知り、その解決や未来社会の形成に向けて農業が果たしうる役割を考える。 ④ グループ討論や総合討論を通じて、共同作業による知識の共有や理解の深化を進める経験をする。
授業方法と留意点	パワーポイントや資料映像を用いる遠隔授業（Web 授業）を行う。遠隔授業は、基本的にはリアル方式（時間割通りの曜日・時に配信される教材や説明を受講する）とし、通信不良が起こった場合には、非リアル方式（Web 上にアップした教材に随時アクセスする）でバックアップすることもある。授業には、いくつかの質疑を織り込み、基本知識の理解度の確認と共有を図る。理解を深めるために、毎回の授業後にリアクションペーパー（授業内容に関する事後学習とその内容のレポート）を課す。前期日程の後半に、提出されたリアクションペーパーから幾つかの課題を抽出し、それらについて Web 経由でのグループ討論や総合討論を行い、総合レポートにまとめる。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	農業生態系の基礎 (1)	自然生態系と農業生態系の定義、類型および基本的な特徴を理解する。	事前：シラバスの理解 事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）
2	農業生態系の基礎 (2)	農業生態系の構成要素（気候、植生、水、土壌など）と人間活動との関わりを理解する。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
3	農業生態系の基礎 (3)	人為生態系（攪乱生態系）や農村景観、荒廃景観などから自然と人間活動（農業や牧畜、森林伐採、地形改変など）との関わりや風土の成り立ちを考える。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
4	世界の風土と農業 (1)	西アフリカを事例に乾燥地・半乾燥地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
5	世界の風土と農業 (2)	環インド洋地域（南アジア、東アフリカ）を事例に亜湿潤地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
6	世界の風土と農業 (3)	東南アジアを事例に湿潤地の農業と生態環境との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
7	日本の風土と農業 (1)	北海道、東北、関東、甲信越の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
8	日本の風土と農業 (2)	近畿、四国、中国の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
9	日本の風土と農業 (3)	九州、沖縄（島嶼地域）の生態環境と農業との関わりを知る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
10	農業と環境問題 (1)	農業による生態環境（特に土壌、水、植生などの劣化や汚染）への影響と保全のあり方を知り、解決への糸口を探る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
11	農業と環境問題 (2)	都市化や過疎化、高齢化に伴う生態環境や農業の変容状況と問題点を把握し、解決への糸口を探る。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
12	農業の未来	環境保全的な農業や社会的弱者層支援の取り組み事例を参照し、国内外の都市域や農村域の未来像と農業が果たす役割を考える。	事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
13	グループ討論	授業やリアクションペーパーから抽出された課題についてのグループ討論および総合討論への準備作業を行う。	事前：抽出された課題群から割り当てられた課題についての予習 事後：リアクションペーパーの作成と提出（授業日から5日以内）	
14	総合討論：日本の農業の特徴と課題	グループ討論から抽出された日本の農業に関する課題について、その特徴や解決策に関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：関心ある課題についての総合レポートの作成と提出（講義日から7日以内）	
15	総合討論：世界の農業の特徴と課題	グループ討論から抽出された世界（特にアジアやアフリカ）の農業に関する課題について、その特徴や解決策に関するグループ発表と質疑応答および討論を行う。	事前：総合討論の話題に関する予習 事後：関心ある課題についての総合レポートの作成と提出（講義日から7日以内）	

実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学1年生のなっとく！生態学	鷲谷いづみ	講談社
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	季刊地域 (バックナンバー各号)		農山漁村文化協会
	2	宮本常一とあるいた昭和の日本 (全25巻)	監修: 田村善次郎・宮本千晴	農山漁村文化協会
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業ごとのリアクションペーパー (70%) と総合レポート (30%) で評価し、60%以上を合格とする。			
学生への メッセージ	<p>(1) 農業や生態系を理解するには、授業や書籍から得る知識だけではなく、自身の感性を磨き働かせることも大切です。それは、必ずしも特別なことではなく、自身の日常の暮らしの風景 (地形、街並み、土地利用、植物、土、風、音、香りなど) とそれらの季節の移ろいに注意を向けることから始まります。</p> <p>(2) 教員の大切な仕事は学生との雑談だと思っています。当面はWeb 経由になりますが、授業日 (毎週木曜日) の午後 14:00~17:00 をコアタイムとし、授業内容に関する質疑応答や雑談ができるようにします。希望があれば、コアタイム以外の日時でも対応するようにします。</p>			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8 号館 (農学部棟)・環境農学研究室 (213 号室)			
備考				

科目名	基礎統計学	科目名 (英文)	Basic Statistics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1012a0		

授業概要・目的	統計学は世の中で起きている事象を限られたデータから本質的に理解する上で役立つ重要なツールであり、社会で幅広く活用されている。本講義では、データのまとめ方(記述統計)や確率分布に関する理論的背景の学修を基礎として、標本データから母平均や母比率を推定する方法や、2つの標本の代表値の差を検定する方法について農学の視点から学ぶ。また、相関分析や回帰分析を用いて2つの標本の相関や因果関係を検定する方法を学ぶ。
到達目標	① データの代表値や散らばり指標の計算とその解釈ができる。 ② 標本から母平均や母比率の推定を行うことができる。 ③ 2標本の母平均や母比率の差の検定を行うことができる。 ④ 2変数を用いて相関分析や回帰分析を行うことができる。
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を用いて講義形式で実施する。教科書および配布プリントによる事前学習を必須とする。また、事後学習として練習問題に取り組むこと。成績は授業の中で実施する中間試験(第8回講義を予定)と定期試験の結果に基づき評価する。授業には毎回、教科書、配布プリント、電卓(8桁以上の表示ができ、ルート計算ができるもの。スマホ可)を持参すること。
科目学習の効果(資格)	統計学は様々な領域の学問にとって有用となる基礎的知識である。以後の多くの科目の予備知識となるだけでなく、卒業研究で取り組む社会調査や、社会人となってからのビジネススキルに大いに役立つものである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	記述統計の基本(1)	データの代表値の計算方法を理解する。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
2	記述統計の基本(2)	データの散らばりの指標の計算方法を理解する。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
3	順列・組み合わせと確率	順列・組み合わせと確率の計算方法について学ぶ。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
4	確率変数と確率分布	確率変数の考え方といろいろな確率分布について学ぶ。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
5	母集団と標本	標本平均や標本比率の分布について学ぶ。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
6	母平均の推定	標本から母平均を推定する方法を学ぶ。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
7	母比率の推定	標本から母平均を推定する方法を学ぶ。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
8	仮説検定の考え方・中間試験	仮説検定の考え方について学ぶ。 第1回～第7回の講義内容について中間試験を実施する。	事前:配布プリントを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
9	母平均と母比率の検定	1変数による母平均(母比率)の検定の方法について学ぶ。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
10	母平均の差の検定	母平均の差の検定方法について学ぶ。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
11	母比率の差の検定	母比率の差の検定方法について学ぶ。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
12	独立性の検定	クロス集計表の読み方と、2つの変数の関連性を評価するカイ2乗検定の方法を学ぶ。	事前:配布プリントを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
13	相関係数	相関係数の計算や検定の方法を学ぶ。	事前:教科書の該当ページを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
14	回帰分析の基本	回帰分析の考え方や最小二乗法について学ぶ。	事前:配布プリントを読み、練習問題に取り組んでおくこと。 事後:練習問題による復習
15	回帰分析における仮説検定	単回帰分析における仮説検定の方法について学ぶ。	事前:配布プリントを読み、練習問題に取り組んでおくこと。

				事後：練習問題による復習
実務経験				
関連科目	情報リテラシーI 食農ビジネス学基礎演習 I～III			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	例題で学ぶ初歩からの統計学	白砂堤津耶	日本評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	身につく統計学	伊藤公紀、伊藤裕康	森北出版
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード	hqrhu4e			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	中間試験(40%)と定期試験(60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ	初めはとつきにくいと感じるかもしれませんが、繰り返し問題を解くうちに慣れてきます。練習問題をたくさん解きましょう。			
担当者の 研究室等	8号館 3階 教員室316 持続型フードシステム研究室			
備考	採点后、中間試験・定期試験の解答用紙を返却します(定期試験は希望者のみ)。			

科目名	食と農の近現代史	科目名 (英文)	Modern History of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1013a0		

授業概要・目的	今日のわが国の農業・農村社会や食生活・食料消費は歴史的に形作られてきたものであり、その現状の特徴や課題を理解するためには、農業・農村社会や食生活・食料消費の歴史的な変遷について理解することが必要である。本講義では、近現代のわが国の農業・農村社会と食生活・食料消費の歴史的な変遷を画期区分し、それぞれの段階における経済・社会の状況、農業と食生活の状況と特徴、課題について、特に現代（第2次世界大戦後）を中心に講述する。そのことにより、今日の食料・農業の姿が形づくられてきた歴史的な経過に関する理解を深めることを目的とする。授業担当者は、地方自治体の農林技術部門における実務経験を持ち、授業ではその経験を踏まえた事例の紹介などを取り入れる。
到達目標	① わが国の経済社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。 ② わが国の農業・農村社会の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。 ③ わが国の食生活・食料消費の歴史的な変遷についての知識を得ることができる。 ④ これらの知識をもとに、今日の農業や食生活・食料消費の姿が形づくられた経緯を理解することができる。 ⑤ これらの知識を、これからの農業や食生活・食料消費のあり方を考えるために応用できるようになる。
授業方法と留意点	配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、小テストや小レポートを実施する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	わが国の農業と食生活の画期	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、農業と食生活の画期区分	事前：シラバスの理解 事後：農業・食生活の画期の確認
2	近世の社会と農業・農村	近世（江戸時代）の社会、近世の農業と農村の特徴	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
3	明治期の経済・社会と農業・農村、食生活	明治時代の社会と経済、地租改正と地主・小作関係の形成、農業の特徴、家族と生活、食料消費・食生活の特徴	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
4	大正・昭和戦前期の社会・経済と農業、食生活	資本主義の形成と社会構造の変化、小作争議と地主制の動揺、農業生産力の発展、勤労者の形成と食生活、戦時体制下の農業と食生活	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
5	第2次大戦直後の社会・経済と食生活	1945年～1950年代前半：第2次大戦後の社会、食料不足と食料援助、学校給食の開始	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
6	戦後改革・復興期の農業・農村	1945年～1950年代前半：第2次世界大戦の終了と戦後改革、農地改革と地主制、食糧増産政策と農業生産力の発展	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
7	高度経済成長期の社会・経済と食生活	1950年代後半～1960年代：高度経済成長と社会・経済の変化、家族の生活の変化、食生活の洋風化・高級化、スーパーの誕生と食料・農産物の流通の変化	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
8	高度経済成長期の農業・農村	1950年代後半～1960年代：農業基本法の制定と基本法農政の展開、農業・農村の変化、農産物輸入の本格化	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
9	安定成長期の社会・経済と食生活	1970年代～1980年代：安定成長への移行と社会・経済の変化、食料消費の成熟と多様化、日本型食生活への着目	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
10	安定成長期の農業・農村	1970年代～1980年代前半：高度経済成長から安定成長への移行、米過剰の発生と生産調整、農業・農村の変化	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
11	国際化時代の農業政策と農業	1980年代後半～1990年代前半：国際化と農業、内外価格差の拡大の農産物輸入の新たな傾向、「新しい食料・農業・農村政策の方向」と農業政策の転換、農業・農村の多面的機能への着目	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
12	WTO加盟と食料・農業・農村基本法	1990年代後半：ガット・ウルグアイラウンド交渉合意・WTO発足と農業への影響、食料・農業・農村基本法の制定	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
13	2000年代の社会と食生活	2000年代の社会、食の安全・安心への不安と不信、食の簡便化の進行、食をめぐる格差の拡大	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
14	2000年代の農業・農村	農業経営の減少と農業従事者の高齢化の進行、新たな農業の担い手の登場	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	
15	食と農の変遷と将来	授業のまとめ	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の農業 150年	暉峻衆三	有斐閣

	2	消費者の歴史	田村正紀	千倉書房
	3	未来を語る日本農業史	野田公夫	昭和堂
授業形態	対面授業			
Teams コード	w5t142u			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験または期末レポート(40%)と毎回の授業中小テスト・レポート(60%)で評価し、60%以上で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	食料・農業市場研究室			
備考				

科目名	ミクロ経済学	科目名 (英文)	Microeconomics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1014a0		

授業概要・目的	経済学とは、現実の経済（生きるために必要な財・サービスを生産し、分配し、消費すること）を説明する学問であり、特にミクロ経済学では、個々の企業や家計といった経済主体の行動の分析や、市場における需要と供給の分析を通じて、現実の経済を理解する。本講義では、需要および供給の特質、市場における需要と供給の調整のしくみ、経済主体である家計および企業の行動を学ぶことを通じて、ミクロ経済学の基本的知識と考え方を農学の視点から理解することを目的とする。
到達目標	① 経済循環と個々の経済主体（家計・企業・政府）の活動について理解する。 ② 需要と供給の特質を理解する。 ③ 市場における需要と供給の調整メカニズムについて理解する。 ④ 市場取引や市場均衡の意義を理解する。
授業方法と留意点	主に、板書（もしくはパワーポイント）による講義を行い、適宜、資料プリントを配布する。講義の理解度をはかるために、小テスト（練習問題）を実施する。また、前回授業の復習を行うこと。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	経済循環と経済主体	個々の経済主体との活動と経済循環構造との関係を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
3	需要曲線と供給曲線	需要曲線と供給曲線の定義とその意味を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
4	市場均衡	市場メカニズムによる需要と供給の調整を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
5	需要曲線と供給曲線のシフト	需要曲線と供給曲線のシフト要因と市場価格変動を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
6	価格規制	価格規制が市場に及ぼす影響について理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
7	価格弾力性	需要および供給の価格弾力性の定義とその決定要因を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
8	需要の価格弾力性の応用	需要の価格弾力性と支出額、税負担との関係を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
9	経済余剰分析	消費者余剰、生産者余剰の定義と市場均衡における経済余剰について理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
10	経済余剰分析の応用	経済余剰について、税金と補助金、関税と数量割当の比較を行う。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
11	市場の失敗	市場の失敗の意味とその要因を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
12	消費者行動の基礎	消費者行動に関する仮定と無差別曲線、効用関数を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
13	需要曲線の理論的背景	予算制約と効用最大化に基づいた需要曲線の導出を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
14	生産者行動の基礎	生産者行動に関する仮定と等量曲線、生産関数、費用関数を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読
15	供給曲線の理論的背景	利潤最大化条件に基づいた供給曲線の導出を理解する。	事前：前回授業内容の復習 事後：講義時のノートの整理と再読

実務経験	
関連科目	

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	マンキュー経済学 ミクロ編	N・グレイジー・マンキュー 著	東洋経済新報社
3			

授業形態	対面授業
Teams コード	Owdk13f
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール及び Teams のチャンネル内のチャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	授業中の講義の学習確認小テスト（40%）、期末試験（定期試験）（60%）で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	
担当者の	地域マネジメント研究室

研究室等	
備考	

科目名	フードシステム論	科目名 (英文)	Economics of Food System
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1027a0		

授業概要・目的	農漁業生産からそれら生産物を取り扱う流通業を経由して、川下の食品小売業、外食産業さらに最終需要者である消費者に至る食料品全体の流れをフードシステムとして理解する。生産現場から食卓に至る過程を社会的分業という視点にたつて、フードシステムを構成している生産者、中間流通業者、小売業者それぞれがどのような役割(機能分担)を演じているのかを総合的に学ぶ。さらに、魚離れ問題に代表される日本人の食生活・食文化の崩壊・食品需要の縮減の中で、新たに組み込まれている農水産物の輸出や消費者に対する食育についても理解を深める。
到達目標	① フードシステム(生産者、中間流通業者、小売業者)それぞれの役割分担が理解できる。 ② 一次産業の現状について理解できる。 ③ なぜ、食料品の価格変動が工業製品に比べ激しいのか、需給構造等から説明できる。 ④ 魚屋などの家族経営が減少し、食品スーパーなどに小売業が移行したことが理解できる。 ⑤ 国内需要が減少し、農水産物の輸出が活発化していることについて理解できる。
授業方法と留意点	遠隔講義に沿って必要資料などを組み込み、さらにわかり易い授業を心がける。 講義の理解度をはかるため適宜課題を提示する。また、事前学習を毎回指示するので学習を行うこと。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	フードシステムの概要	我が国のフードシステムを構成する業種・業態の概要(社会的分業)を説明する。	事前: シラバスの理解
2	農漁業担い手問題	一次産業の衰退とその背景を理解する。	事前: 学習範囲の予習	
3	低い食料自給率	輸入農水産物の流入経緯と一次産業への影響を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
4	中間流通の仕組み	卸売市場流通の誕生とその仕組みを理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
5	中間流通の変化	市場外流通の進展と卸売市場の変容を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
6	専門小売店の衰退	専門小売店の衰退とスーパーチェーンの成長を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
7	スーパーチェーンの成長理由	スーパーチェーン組織の仕組みと運営を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
8	スーパーチェーンの取引実態	スーパーチェーンの売買取引と価格形成への影響を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
9	中食・外食産業	中食・外食産業の成長を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
10	食生活の変貌	文化的消費から文明的(記号価値)消費への移行を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
11	社会問題としての食料消費	飽食・豊食と食育の必要性を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
12	和食文化	肉食文化と米・魚食文化の比較と背景を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
13	トレーサビリティ	食の安全・安心につながるトレーサビリティについて理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
14	農水産物の輸出	日本産農水産物の輸出取り組みの現状と課題を理解する。	事前: 学習範囲の予習 事後: 学習課題の学習	
15	食の安全保障	世界の食料事情と食料安全保障を理解する。	事後: 学習課題の学習	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フードシステムの経済学	時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博	医歯薬出版株式会社
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/対面授業
Teamsコード	mbept7u
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	チーム内のチャットとメール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	評価はレポートを活用する。提示した課題を受講生がレポートする。評価(合格)はその内容が60%以上とする。
学生へのメッセージ	

担当者の 研究室等	食品産業研究室(217)
備考	

科目名	食農共生論	科目名 (英文)	Symbiosis of Food and Agriculture
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	OAE1036a0		

授業概要・目的	近年、さまざまな側面から「食と農の距離の拡大」(食と農の乖離)の問題が指摘されている。私たちが真に豊かな食を実現し、日本の農業を守り発展させていくためには、食と農の距離を少しでも短くすること、すなわち食と農を結び両者が「共生」していく道筋を考えていかなければならない。本講義は、食農共生・循環型農業論系の概論として「食と農の距離」の問題を考えながら、生産者と消費者、農村(むら)と都市(まち)、産地と食卓を結ぶ食農共生の課題や方向性について理解し、考えていく。
到達目標	① 近年の「食と農の距離の拡大」の状況について理解する。 ② 食と農の距離を短くする、食と農を結ぶためのさまざまな取り組みの現状を知る。 ③ ①②を通じて、農業・農村の発展や食料問題に解決のためには、食と農を結ぶこと(食農共生)の考え方が重要であることを理解し、食と農の共生の方向性について考えることができるようになる。
授業方法と留意点	・ 授業形式：講義中心で、補足プリント(講義レジュメ、資料など)を配布して進める。 ・ 実態をリアルに把握できるように、DVDなど映像教材を活用する。可能ならば、ゲストスピーカーによる講義を行う。 ・ 質問等がある場合、授業時間内に質疑の時間をとることは難しいため、授業後やオフィスアワー、電子メールやICTツール等を積極的に利用すること。 ・ 事前の予習と復習(講義後の所感)を重視する。そのために、ほぼ毎回、予習確認小テストと振り返りシートの提出を課す。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	農学、食農ビジネス学における食農共生の問題	農学、食農ビジネス学を学ぶ上での食農共生の問題の位置づけ、重要性について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	2	食と農の距離の拡大①(時間的・地理的距離の拡大)	農産物・食料の輸送・輸入距離をはじめとする、時間的・地理的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	3	食と農の距離の拡大②(段階的距離の拡大)	農産物・食料の流通・加工過程をはじめとする、段階的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	4	食と農の距離の拡大③(心理(意識)的距離の拡大)	農や食に関する消費者の意識をはじめとする、心理(意識)的距離の拡大について現状を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	5	地産地消・農産物直売所①(理念と背景)	地産地消の理念と歴史的背景、農産物直売所の運営原則などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	6	地産地消・農産物直売所②(現状と課題)	地産地消、農産物直売所の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	7	農商工連携①(理念と背景)	農商工連携の理念と歴史的背景、法制度などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	8	農商工連携②(現状と課題)	農商工連携の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	9	産直・産消提携①(理念と背景)	産直・産消提携の理念と歴史的背景、制度や事業のしくみなどについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	10	産直・産消提携②(現状と課題)	産直・産消提携の取組み実態を知り、その役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	11	農村都市交流・グリーンツーリズム①(理念と背景)	農村都市交流・グリーンツーリズムの理念と社会的・経済的背景、法制度などについて理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	12	農村都市交流・グリーンツーリズム②(現状と課題)	さまざまな種類の農村都市交流・グリーンツーリズムの取組み実態を知り、それらの役割と課題を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	13	食農共生の主体形成	食農共生の主体形成(担い手づくり)について、農業者や消費者の組織化、民間事業者や自治体の取組み状況を知り、それぞれの役割を理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	14	食農共生の政策	食と農を結ぶための政策の現状を理解し、これからの食農共生政策の課題と方向性について理解する。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。
	15	まとめ	これまでの復習を行うとともに、私たちがこれからの食農共生を進めていくための課題と方向性について考える。	講義レジュメに記載した内容を事前・事後に学習する。

実務経験	
関連科目	食農ビジネス学概論、食と農の倫理、協同組合論など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食と農を学ぶ人のために	祖田修/杉村和彦編	世界思想社
	2	地域産業の発展と主体形成-食と農、資源を活かす-	北川 太一	放送大学教育振興会
	3	農と食の新しい倫理	秋津・佐藤・竹之内編著	昭和田

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業
Teams コード	sj5ueeu
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	次の①②の方法により評価し、60%以上で合格とする。 ①予習確認小テストと振り返りシート、ならびに期間中に出題するレポート課題（40%程度） ②定期試験もしくは期末レポート（60%程度） ※②については、決定次第連絡する。
学生への メッセージ	日々の食卓から農業の生産現場に、枚方キャンパスから自然豊かな農山漁村に思いを馳せることの大切さを実感しましょう！
担当者の 研究室等	農学部3階 318 研究室
備考	

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTubeの利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内で、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北川 太一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTubeの利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内で、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標（夢）および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果（資格）	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む）	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために（研究倫理を含む） 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTubeの利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	成 善政
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	濱田 英嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。																
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。																
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上																
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上																
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内で、事前・事後指導について指示する。																
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出																
実務経験																				
関連科目	全ての教科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td>摂南大学教務委員会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	別途、指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	別途、指示する																			
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。																			
担当者の 研究室等																				
備考																				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳村 俊介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉井 邦恒
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノートの書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦出 俊和
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	副島 久実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 葉子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート の書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中塚 華奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノートの書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内で、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Freshman Seminar
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	戴 容泰思
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1067a0		

授業概要・目的	本ゼミナールは、新入生が学部・学科での学修を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムである。すなわち、学生が大学での学修に必要な基本的知識や主体的で深い学びの方法を修得し、自ら大学での学びをデザインするとともに、将来の目標について考えることを目的とする。各専任教員による少人数ゼミナールを基本とし、教員と学生が密接にかつ自由に、相談・議論しながら進める。教材として全学共通教材である「First Year Study Guide」を活用し、大学として共通する項目を学修するとともに、教員独自の教材を用いて学修を深める。 SDGs 4
到達目標	① 摂南大学での学修に必要な基本的知識および主体的学習法を身につける。 ② 学科の履修モデルを通してカリキュラムの概要を理解するとともに、学びの順次性等を考える。 ③ 各自の社会的使命、卒業後の目標 (夢) および職業倫理について話し合い、大学での学修目標を明確にする。 ④ 専門科目を学修するために必要な基礎的汎用能力を身につける。 ⑤ 大学や社会でのマナーや行動規範を身につける。
授業方法と留意点	本授業は、すべて遠隔授業で行なう。 ①第1及び及び2回の授業では、「First Year Study Guide」を用いて、摂南大学での学修に必要な情報および主体的学習法を身につける。 ②第3回の授業では、各グループごとに「First Year Study Guide」に記載されているキャリアワークシートに取り組む。 ③第4～6回の授業では、グループにおける協働学習により文章力を身につける。文章力ワーク及び新聞コラム書き出しのワークを課題として実施する。授業に必要な資料は、授業時間内に配布する ④第7～11回の授業は、各専任教員による少人数ゼミナール形式で行う。個人及びグループごとに、課題の調査等をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	①摂南大学で学んでいく上で役立つ情報や、これからの学びについて理解することができる。 ②主体的学習法や協働学習法を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ミニ ABD 第1章 摂南大学を知ろう ABDを実施	自己紹介、QFT (Question Formulation Technique) ABD (Active Book Dialog) などの主体的学習法を体験する。 摂南大学の沿革・概要および図書館、スポーツ施設、情報教育設備などの活用法、摂南大学環境方針	事前：「First Year Study Guide」の第1章を読んでおく。 事後：ABD 読書法及び授業内容の理解。
2	第2章大学の学びのながれを知ろう	大学の教育プログラムおよび学部・学科のカリキュラム、シラバス・単位・履修登録方法・試験等について学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第2章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
3	第3章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む)	大学での主体的で深い学びの方法、ノート書き方、レポートの書き方、文献の引用の仕方、正しい研究方法などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第3章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
4	第4章大学の学びを深めるために (研究倫理を含む) 第5章快適で安心な学生生活をおくるために	第4章：農学部学修支援室、課外活動、ボランティア活動、守ってほしいマナーなどについて学ぶ。 第5章：身体や心の相談窓口、大学生活を安心して送るための保険等の制度、ハラスメントの相談窓口などについて学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第4章及び第5章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
5	第6章今までの自分を自分で分析しよう。 第7章キャリア・プランニング 第8章 SPI、公務員試験、TOEIC?、L&RTEST、資格試験を意識しよう。	入学前の振り返り、キャリア・プランニングについて、また様々な資格についても学ぶ。	事前：「First Year Study Guide」の第6～第8章章を読んでおく。 事後：授業内容の振り返り。	
6	課題学習① 文章力の基本を身につける	ガイダンス 文章力の基本を身につける① 新聞コラム書き出しのワーク① 「特定の記号」を課題とした文章作成ワーク	事前・事後：授業内で、指示する。	
7	課題学習② 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける② 新聞コラム書き出しのワーク② 学生各自が興味を持った新聞記事を持参し、それを課題とした文章作成ワーク	同上	
8	課題学習③ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける③ 新聞コラム書き出しのワーク③ 「YouTube の利便性・危険性」を課題とした文章作成ワーク	同上	
9	課題学習④ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける④ 新聞コラム書き出しのワーク④ 「食と農に関する新聞記事」を課題とした文章作成ワーク	同上	
10	課題学習⑤ 文章力の基本を身につける	文章力の基本を身につける⑤ 新聞コラム書き出しのワーク⑤	事前：前回の「食と農に関する記事」に関連した資料を収集する。	

			前回の「食と農に関する新聞記事」に関連する資料を課題とした文章作成ワーク	事後：授業内で指示する。
	11	課題学習⑥	各ゼミナール担任独自の課題①	事前・事後：授業内で、指示する。
	12	課題学習⑦	各ゼミナール担任独自の課題②	同上
	13	課題学習⑧	各ゼミナール担任独自の課題③	同上
	14	課題学習⑨	各ゼミナール担任独自の課題④及びポスター作成	授業内にて、事前・事後指導について指示する。
	15	課題学習⑩ 学修成果の発表	基礎ゼミナールを通じて興味を持ったテーマや今後の勉強の進め方について、各グループ毎にポスター発表する。	事前：発表会までにポスター作成しておく。 事後：各グループの課題についてのレポート作成と提出
実務経験				
関連科目	全ての教科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Year Study Guide		摂南大学教務委員会
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 学習への取り組み、提出物(40%)、レポート(60%)により指導教員が総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本ゼミナールは、新入生が摂南大学での学生生活を不安なくスタートし、目標を持って大学での勉学に励むために必要な基礎的知識・技能・態度を修得する教育プログラムです。また、農学部専門教科の教員の研究内容や考え方について知ることができるプログラムでもあります。学生生活で分からないことがあれば、担任の教員に積極的に質問しましょう。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	食農ビジネス学基礎演習 I	科目名 (英文)	Basic Seminar of Agri-Food Business I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦出 俊和、副島 久実、谷口 葉子、戴 容泰思
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OAE1068a0		

授業概要・目的	大学における学修・研究活動や社会におけるビジネス活動において、PCの利用は一般的であり、また、様々な情報がインターネットを通じて簡単に取得できるようになっている。本演習では、情報を正しく利用するための情報リテラシー、情報倫理を学修し、PCを使用するための基本的な知識と技能（特に、Word、Excel、PowerPointの基本的操作方法）を修得するとともに、Excelによる経済データの基礎的な加工方法について学修する。各演習では、学修内容を補完するための課題を出し、知識・技能の定着を目指す。
到達目標	① PC、ネットワーク、情報セキュリティ等のICTの基本知識について理解する。 ② アプリケーションを操作して、文書作成、表計算処理、プレゼンテーション資料の作成が行える。 ③ 経済データの基本的な統計処理が行える。
授業方法と留意点	情報処理演習室において、PCを用いた実習形式の授業を行う。毎回プリントを配布し、授業の前半でプリントの内容にそって練習課題を行い、その後各自で提出課題に取り組み、それを提出してもらう。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	PCの基本操作と情報倫理、情報セキュリティ	PCの基本操作およびファイルの操作方法を修得する。また、情報倫理と情報セキュリティについて理解する。	事前：シラバスの理解
2	Wordによる文書作成	文字入力、文章の作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
3	Wordによる文書編集	段組&オブジェクトの利用の操作方法などの文章の編集を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
4	Excelによる作表	文字列・数値データの入力・編集と表の作成・編集の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
5	Excelによる表計算	数式および関数を用いて、数値データの計算方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
6	Excelによるグラフ作成	グラフ作成の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
7	Excelによるデータベース利用	データの並べ替え、フィルタの利用、ピボットテーブルの利用の操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
8	度数分布表・ヒストグラムの作成	度数分布表とヒストグラムを作成してデータの分布を把握する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
9	データの中心と散らばり	データの代表値と散布度を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
10	時系列データ	移動平均や成長率を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
11	データの標準化	標準化変量や偏差値を計算する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
12	2変数のデータの取り扱い	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
13	2変数間の関係	2変数についての散布図の作成と相関係数の計算をする。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
14	Wordの活用	WordとExcelを連携してレポートを作成する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	
15	プレゼンテーション	PowerPointの基本操作方法を修得する。	事前：前回学修範囲の復習 事後：課題の提出	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	第4版 はじめよう 経済学のための情報処理	山下隆之・石橋太郎・伊東暁人・上藤一郎・黄愛珍・鈴木拓也	日本評論社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Excelで読み取る経済データ分析	橋本紀子	新世社
	2	よくわかる統計学Ⅱ 経済統計編 第2版	御園謙吉・良永康平 編	ミネルヴァ書房
	3			

授業形態	対面授業
Teamsコード	0yopddo
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール及びTeamsのチャンネル上のチャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容 (100%) で評価し、60%以上で合格とする。
学生へのメッセージ	

担当者の 研究室等	地域マネジメント研究室（浦出）、農水産物・食品マーケティング研究室（副島）、持続型フードシステム研究室（谷口）、食品流通研究室（戴）
備考	

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	喜多 大三, 大塚 正人, 加藤 裕介, 戴 容泰思, 藤井 毅, 藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	OHU1401a2		

授業概要・目的	<p>本科目の講義目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。授業では教養入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、及びコミュニケーション能力を身につけることを目指す。</p> <p>SDGs 1～17</p>			
到達目標	<p>① 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 ② ABD による読書法を身につけている。 ③ チームワーク能力を身につけ、対話を通じて協働学習をすることができる。 ④ SDGs (Sustainable Development Goals) と UNAI (The United Nations Academic Impact) について基本的な知識を身につけている。 ⑤ 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 ⑥ コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解すること</p>			
授業方法と留意点	<p>授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得する。教養入門書を用いて ABD 読書法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験する。本科目は、これまでの講義とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるため、諸君が積極的に参加することが大切である。この講義は遠隔授業形式で行う。</p> <p>授業計画は以下の通りとなる。 大学教養入門 6月20日 第1回・第2回：チームビルディング・ガイダンス、読解力テスト(事前) 6月27日 第3回・第4回：大人の教養「第二章 宇宙」 7月4日 第5回・第6回：大人の教養「第四章 人間と病気」 7月11日 第7回・第8回：アドラーの心理学「第二章 育児と教育」 7月18日 第9回・10回：アドラーの心理学「第三章 横の関係と健康なパーソナリティ」 7月25日 第11回「SDGs」・「The United Nations Academic Impact」、読解力テスト(事後)</p> <p>提出物：事前・事後シート、理解度確認テスト、ふりかえりシート、読解力テスト、大学教養入門まとめレポート</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生に必要な教養の基礎知識が身につく、ABD 読書法等の協働学習により、文章の要約、プレゼンテーション、対話の基本が身につく。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	枚方 CP キックオフ 4月18日 (9:20~11:00)	チームビルディングの研修プログラム	
	2	枚方 CP キックオフ 4月18日 (11:10~12:30)	チームビルディングの研修プログラム	
	3	枚方 CP キックオフ 9時20分~14時20分 ガイダンス (14:20~14:50) 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか 4月18日	チームビルディングの研修プログラム 本科目の特徴、どのような力が身につくのかを知り、授業の概要、目的、到達目標およびスケジュールと ABD 読書法の説明などを受ける。	事前：大人の教養の「序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか」を読むこと。 事後：ABD 読書方法の確認と理解をすること。
	4	読解力テスト(事前) 大学教養入門：「第二章 宇宙」 4月25日	読解力テスト(事前：20分) 教科書の紹介、本日の概要、チーム作り、授業の約束事、ABD による学習の進め方の説明する。 「第二章 宇宙」章を ABD 法により学修する。 ジグソー法(11~12 チーム単位)	事前：「大人の教養 第二章 宇宙」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。
	5	大学教養入門：「第二章 宇宙」 4月25日	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後：「第二章 宇宙」のサマリーシート及び事後学習シートに 380~400 文字で要約し、提出する。
	6	大学教養入門：「第四章 人間と病気」 5月2日	「第四章 人間と病気」章を ABD 法により学修する。 解説 協働学習、対話、理解度確認テスト、サマリーシートへの記入。 ジグソー法(11~12 チーム単位)	事前：「大人の教養 第四章 人間と病気」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。
	7	大学教養入門：「第四章 人間と病気」 5月2日	QFT の説明と実践、振り返りシートの作成と提出	事後：「大人の教養 第四章 人間と病気」のサマリーシート及び事後学習シートに 380~400 文字で要約し、提出する。
	8	大学教養入門：「第六章 歴史」 5月9日	「第六章 歴史」章を ABD 法により学修する。 解説 協働学習、対話、理解度確認テスト、サマリーシートへの記入。	事前：「大人の教養 第六章 歴史」を読み、事前学習シートに (①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す) ①と②を記入して、提出する。

			ジグソー法(11~12 チーム単位)	
9	大学教養入門：「第六章 歴史」 5月9日	QFTの説明と実践、振り返りシートの作成と提出		事後：「大人の教養 第六章 歴史」を事後学習シートに380~400文字で要約し、提出する。
10	世界を知る教養：国際連合：サステナブルディベロップメントゴールズ(Sustainable Development Goals：SDGs) 6月20日	SDGsの概要、SDGsゲーム、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。		事前：「SDGsと国連アカデミックインパクト」を読み、事前学習シートに①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す①と②を記入して、提出する。
11	世界を知る教養：国際連合アカデミックインパクト(UN academic impact) 6月20日	国連の役割と歴史、本学の取り組み、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。 振り返りレポート①(SDGs及び国連アカデミックインパクト)の作成		事後：「SDGs及び国連アカデミックインパクト」のサマリーシート及び事後学習シートに380~400文字で要約し、提出する。 また、振り返りレポート①の作成を提出する。
12	自分を知る教養：「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教育 6月27日	解説 協働学習、プレゼンテーション、対話、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。 ジグソー法(11~12 チーム単位)		事前：アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」を読み、事前学習シートに①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す①と②を記入して、提出する。
13	自分を知る教養：「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教育 6月27日	QFTの説明と実践、振り返りシートの作成と提出		事後：アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」のサマリーシート及び事後学習シートに380~400文字で要約し、提出する。
14	自分を知る教養：「アドラー心理学入門」第三章 横の関係と健康なパーソナリティ 7月4日	解説 協働学習、プレゼンテーション、対話、理解度確認テスト、振り返りシートへの記入。 ジグソー法(11~12 チーム単位) QFTの実践、振り返りシートの作成と提出		事前：アドラー心理学入門「第三章 横の関係と健康なパーソナリティ」を読み、事前学習シートに①不明な用語を調べる。②重要箇所を抜き出す①と②を記入して、提出する。 事後：アドラー心理学入門「第二章アドラー心理学の育児と教育」のサマリーシート及び事後学習シートに380~400文字で要約し、提出する。
15	大学教養入門：まとめ 読解力テスト(事後) 7月4日	グループワーク 「教養とは何か」に関する振り返りレポート②の作成 読解力テスト(事後：20分) 事後アンケート		振り返りレポート②の作成と提出する。

実務経験																	
関連科目	摂南大学で開講されている科目すべて。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	リーディングスキルテスト(個人10%)、事前学習シート(個人10%)、事後学習シート(個人10%)、ふりかえりシート(個人20%)、理解度確認テスト(個人10%)、大学教入門まとめレポート(個人40%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格する。定期試験は実施しない。																
学生への メッセージ	この科目は2018年から寝屋川キャンパスで開講されている科目で、全国に先駆けて実施する摂南大学独自の教養科目です。大学生としてふさわしい教養の基礎と主体的な学習方法が身につく、さらに学部学科を超えて友人を作ることが出来るでしょう。																
担当者の 研究室等	喜多 大三 (農学部8号館2F) 大塚 正人 (薬学部1号館5F) 加藤 裕介 (農学部8号館3F) 戴 容泰思 (農学部8号館2F) 藤井 毅 (農学部8号館2F) 藤林 真美 (農学部8号館3F)																
備考																	

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。2回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果(資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現法	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OJA1402a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語(話し言葉)と、レポートなどで書く日本語(書き言葉)は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語(話し言葉、書き言葉)と向き合ってください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	総学習時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	・英語の基本構造が理解できるようになる。 ・基本構造が理解できるようになると、相手の言っていることをより正確に理解できるようになり(リスニングおよびリーディング技能の向上)、また自分で言いたいことが英語で表現できるようになる(スピーキングおよびライティング技能の向上)。 ・英検、TOEICなど英語能力試験のスコア向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価の方法を説明。 品詞の確認。	第2講に備え、テキストを購入。
2	Unit 1 : Volcanoes: (A) Mountains of Fire	火山に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.13 を読み、わからない単語を調べておく。P.13 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
3	Unit 1 : Volcanoes: (B) Journey to the Center of the Earth Unit 2 : Families: (A) My Family	火山、家族に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.17、および P.23 を読み、わからない単語を調べておく。P.17、23 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
4	Unit 2 : Families: (B) Animal Families, Review 1: Kilimanjaro	動物の家族、キリマンジャロに関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.27、および P.33 を読み、わからない単語を調べておく。P.27、33 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
5	Unit 3 : Amazing Feats: (A) The Long, Hard Road, (B) Building the Pyramids	古道、ピラミッドに関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.39、および P.43 を読み、わからない単語を調べておく。P.39、43 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
6	Unit 4 : Big Ideas: (A) A New Building, (B) Big Ideas, Small Sizes	建築、発明に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.49、および P.53 を読み、わからない単語を調べておく。P.49、53 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
7	Review 2: The Great Wall of China, A Chinese Folktale: Meng Chiang-nu and the Great Wall	万里の長城、中国の民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.58~59、および P.61 を読み、わからない単語を調べておく。P.58~59、61 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
8	Unit 5 : Striking It Rich: (A) Winning the Lottery, (B) Fantastic Finds	宝くじ、発見に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.65、および P.69 を読み、わからない単語を調べておく。P.65、69 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
9	Unit 6 : Killer Plants: (A) Beautiful but Deadly, (B) A Plant Experiment	食虫植物に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.75、および P.79 を読み、わからない単語を調べておく。P.75、79 の文章を音読する。 事後学習: 授業ノートを復習。	
10	Review 3 : Central Amazon, A Brazilian Folktale: The Curupira	アマゾン、ブラジルの民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.84~85、および P.87 を読み、わからない単語を調べておく。P.84~85、87 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
11	Unit 7 : The Night Sky: (A) Light Pollution, (B) Our Solar System	光害、太陽系に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.91、および P.95 を読み、わからない単語を調べておく。P.91、95 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
12	Review 1 : A Tanzanian Folktale: The Rabbit and	タンザニアに関する文章を読む。寓話「うさぎとかめ」で音読練習。	【事前学習】テキスト P.35 を読み、わからない単語を調べておく。P.35 の文章を音読する。	

		the Well, Reading aloud: The Hare and the Tortoise	文法（品詞、5文型）の学習。 英作文。 ペアワーク。	【事後学習】授業ノートを復習、「The Hare and the Tortoise」を音読。
	13	Unit 8 : The Olympics: (A) The Modern Olympics, (B) The Ancient Olympics	近代・古代のオリンピックに関する文章 を読む。 文法（品詞、5文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.101、およびP.105を読み、 わからない単語を調べておく。P.101、105の文章を 音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	14	Review 4 : Olympia Greece, A Greak Folktales: Persephone and the Return of Spring	オリンピア、ギリシャ民話に関する文章 を読む。 文法（品詞、5文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.110～111、およびP.112～ 113を読み、わからない単語を調べておく。P.110～ 111、112～113の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	15	前期総復習	前期で学んだことを総復習し、期末試験 に備える。	【事前学習】期末試験に備え、これまでの授業ノー トを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Adventures 1	Carmella Lieske, Scott Menking	Heinle Cengage Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70% 内訳（ ・期末試験：50% ・平常点：30% ・課題：10% ・小テスト：10% ） 注意：原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、授業態度（講義への集中力、投げかける質問に対する呼応、グループ学習への参加、積極性など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。			
学生への メッセージ	・英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです（文法・単語）。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります（リーディング）。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し（リスニング）、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります（スピーキング）。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという4つの柱をバランス良く身につけ、ぜひ英語で自分の世界を広げていってください。 ・一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時間を使い、集中して取り組んでみて下さい。物事に集中して取り組むと判断力が身につく、それは様々なことを乗り越える力になります。大学の勉強で培うこうした力を使って、将来の夢を叶えてほしいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	英語力の土台となる基礎を身につける。具体的には基本的な文法、リーディング、スピーキング、ライティング、リスニングの技能を身につけることで、会話やニュースによく出てくるトピック（文化、社会、自然科学）を基本的な英語で理解し、そのトピックに対する自分の意見を基本的な英語で表現する力をつける。授業を通して、英語に苦手意識をもっている学生はそれを無くし、また英語にある程度自信がある学生はさらに自信をつけることで、英語を好きになることを目指す。 ①5文型を中心に、英語の基本的な構造を理解する。 ②テキストが			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松原 万里子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方針、評価方法などの説明	テキスト、辞書、スマートフォンを持参すること
	2	Unit 1 The Royal Family	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト1	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	3	Unit 2 The Beatles	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト2	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	4	Unit 3 Very Cold	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト3	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	5	Unit 4 Euro Money	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト4	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	6	Unit 5 To Your Health	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト5	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	7	Unit 6 Recycling	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト6	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	8	Unit 7 The UK 臨時テスト(中間)	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 臨時テスト(Unit 1~6)	該当Unitの予習、復習 Unit 1~6までの総復習
	9	Unit 8 A Quiet Life	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト7	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	10	Unit 9 My company	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト8	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	11	Unit 10 Advertising	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト9	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	12	Unit 11 Business Trips	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト10	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	13	Unit 12 Get It Cleaned	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト11	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	14	Unit 13 A Storm	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト12	該当Unitの予習、復習 The 1500 Core Vocabularyの単語テストの予習
	15	Unit 14 The Media 臨時テスト(最終)	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 臨時テスト(Unit 7~13)	該当Unitの予習、復習 Unit 7~13までの総復習
実務経験				

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 1 Essential	Terry OBrien	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ	小石 裕子	アルク
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への積極的参加 10% 単語テスト 20% 臨時テスト(中間、最終) 40%			
学生への メッセージ	スマートフォンのアプリケーションを使って、楽しく語彙学習をしましょう。 (ただし、学習目的以外のスマートフォンの使用は認めない。)			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺脇 圭子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1403c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・オリエンテーション ・Lesson 1 My Family (1)	・評価基準、授業の進め方、授業のルールなどについての説明 ・単語・フレーズ ・Reading	・Readingの復習
	2	・Lesson 1 My Family (2)	・Listening ・家族/親戚に関する単語 ・be動詞①	・授業の復習 ・英作文の予習
	3	・Lesson 1 My Family (2) ・Lesson 2 Our Campus (1)	・英作文 ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 1の復習
	4	・Lesson 1 小テスト ・Lesson 2 Our Campus (2)	・小テスト ・Listening ・場所の前置詞 ・be動詞②(場所)	・授業の復習
	5	・Lesson 2 Our Campus (3)	・名詞を修飾する前置詞句 ・ペアワーク	・Lesson 2の復習
	6	・Lesson 2 小テスト ・Lesson 3 Jobs and Workplaces (1)	・小テスト ・単語・フレーズ ・一般動詞① ・Listening	・授業の復習
	7	・Lesson 3 Jobs and Workplaces (2)	・職業の単語 ・Listening ・一般動詞② ・場所・時の副詞句	・授業の復習
	8	・Lesson 3 Jobs and Workplaces (3) ・Lesson 4 Everyday Activities (1)	・英作文(語順) ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 3の復習
	9	・Lesson 3 小テスト ・Lesson 4 Everyday Activities (2)	・小テスト ・一般動詞③ ・単語・フレーズ	・授業の復習
	10	・Lesson 4 Everyday Activities (3) ・Lesson 5 Transportation (1)	・代名詞 ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 4の復習
	11	・Lesson 4 小テスト ・Lesson 5 Transportation (2)	・小テスト ・Listening ・交通機関の単語	・授業の復習
	12	・Lesson 5 Transportation (3) ・Lesson 6 Part-time Jobs (1)	・命令文 ・前置詞 ・ペアワーク	・Lesson 5の復習
	13	・Lesson 5 小テスト ・Lesson 6 Part-time Jobs (2)	・小テスト ・単語・フレーズ ・Reading	・授業の復習
	14	・Lesson 6 Part-time Jobs (3)	・Listening ・図・表の読み方 ・英作文 ・ペアワーク	前期の総復習(1)
15	・総復習 ・まとめテスト	・前期の総副主 ・まとめテスト	前期の総復習(2)	
実務経験				
関連科目	他の英語科目			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社				
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition	西谷 恒志	成美堂				
	3							
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1							
	2							
	3							
授業形態								
Teams コード								
Moodle コース名 および登録キー								
連絡手段								
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：							
評価方法 (基準)	<table border="0"> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>				全学共通英語課題	30%	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%
全学共通英語課題	30%							
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%							
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回辞書を持参する事 ・ 授業中の携帯電話の使用を禁止する 							
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室							
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。							

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺脇 圭子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・オリエンテーション ・Lesson 1 My Family (1)	・評価基準、授業の進め方、授業のルールなどについての説明 ・単語・フレーズ ・Reading	・Readingの復習
	2	・Lesson 1 My Family (2)	・Listening ・家族/親戚に関する単語 ・be動詞①	・授業の復習 ・英作文の予習
	3	・Lesson 1 My Family (2) ・Lesson 2 Our Campus (1)	・英作文 ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 1の復習
	4	・Lesson 1 小テスト ・Lesson 2 Our Campus (2)	・小テスト ・Listening ・場所の前置詞 ・be動詞②(場所)	・授業の復習
	5	・Lesson 2 Our Campus (3)	・名詞を修飾する前置詞句 ・ペアワーク	・Lesson 2の復習
	6	・Lesson 2 小テスト ・Lesson 3 Jobs and Workplaces (1)	・小テスト ・単語・フレーズ ・一般動詞① ・Listening	・授業の復習
	7	・Lesson 3 Jobs and Workplaces (2)	・職業の単語 ・Listening ・一般動詞② ・場所・時の副詞句	・授業の復習
	8	・Lesson 3 Jobs and Workplaces (3) ・Lesson 4 Everyday Activities (1)	・英作文(語順) ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 3の復習
	9	・Lesson 3 小テスト ・Lesson 4 Everyday Activities (2)	・小テスト ・一般動詞③ ・単語・フレーズ	・授業の復習
	10	・Lesson 4 Everyday Activities (3) ・Lesson 5 Transportation (1)	・代名詞 ・ペアワーク ・単語・フレーズ ・Reading	・Lesson 4の復習
	11	・Lesson 4 小テスト ・Lesson 5 Transportation (2)	・小テスト ・Listening ・交通機関の単語	・授業の復習
	12	・Lesson 5 Transportation (3) ・Lesson 6 Part-time Jobs (1)	・命令文 ・前置詞 ・ペアワーク	・Lesson 5の復習
	13	・Lesson 5 小テスト ・Lesson 6 Part-time Jobs (2)	・小テスト ・単語・フレーズ ・Reading	・授業の復習
	14	・Lesson 6 Part-time Jobs (3)	・Listening ・図・表の読み方 ・英作文 ・ペアワーク	前期の総復習(1)
	15	・総復習 ・まとめテスト	・前期の総副主 ・まとめテスト	前期の総復習(2)
実務経験				
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題	30%		
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回辞書を持参する事 ・ 授業中の携帯電話の使用を禁止する 			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	・英語の基本構造が理解できるようになる。 ・基本構造が理解できるようになると、相手の言っていることをより正確に理解できるようになり(リスニングおよびリーディング技能の向上)、また自分で言いたいことが英語で表現できるようになる(スピーキングおよびライティング技能の向上)。 ・英検、TOEICなど英語能力試験のスコア向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価の方法を説明。 品詞の確認。	第2講に備え、テキストを購入。
2	Unit 1: Secret World: (A) A Hidden World	新種の生物に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.13 を読み、わからない単語を調べておく。P.13 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
3	Unit 1: Secret World: (B) The Lost World, Video: Exploring Congo	小説『失われた世界』に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.17 を読み、わからない単語を調べておく。P.17 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
4	Unit 2: Dangerous Jobs: (A) Firefighters, (B) Predicting the Weather	消防士、天気予報に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.23、および P.27 を読み、わからない単語を調べておく。P.23、27 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
5	Review 1: Komodo Island, An Indonesian Folktale: A Legend of Komodo Island	コモド島、インドネシアの民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.32~33、および P.35 を読み、わからない単語を調べておく。P.32~33、35 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
6	Unit 3: Crystals: (A) Crystal Palace, (B) Crystal Skulls	水晶、考古学のミステリーに関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.39、および P.43 を読み、わからない単語を調べておく。P.39、43 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
7	Unit 4: Life on the Move: (A) Animal Migration, (B) Butterfly Migration	生物移動に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.49、および P.53 を読み、わからない単語を調べておく。P.49、53 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
8	Review 2: Tikal National Park, Guatemala, A Mayan Folktale: The King of the Birds	ティカル国立公園、マヤ族の民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.58~59、および P.61 を読み、わからない単語を調べておく。P.58~59、61 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
9	Unit 5: The Senses: (A) An Unusual Photographer, (B) Senses in Poetry	カメラマン、手話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.65、および P.69 を読み、わからない単語を調べておく。P.65、69 の文章を音読する。 事後学習: 授業ノートを復習。	
10	Unit 6: Art: History and Mystery: (A) Stealing Mona Lisa, (B) Leonardo the Inventor	モナリザの盗難、レオナルド・ダ・ヴィンチに関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.75、および P.79 を読み、わからない単語を調べておく。P.75、79 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
11	Review 3: Florence Italy, An Italian Folktale: A Happy Man's Shirt	フィレンツェ、イタリアの民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。	【事前学習】テキスト P.84~85、および P.87 を読み、わからない単語を調べておく。P.84~85、87 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	

			ペアワーク。																	
	12	Unit 7 : Festivals: (A) A Korean Festival, (B) The Sun Also Rises	韓国とスペインの祭りに関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 91、および P. 95 を読み、わからない単語を調べておく。P. 35、95 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。																
	13	Unit 8 : Heroes for the World: (A) Hero for the Planet, (B) Saving India's Forests	海洋生物学者のシルビア・アール、インドの森林保護に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 101、および P. 105 を読み、わからない単語を調べておく。P. 101、105 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。																
	14	Review 4 : Jantar Mantar India, An Indian Folktale: The Boy and the Drum	ジャンタル・マンタル、インドの民話に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 110~111、および P. 113 を読み、わからない単語を調べておく。P. 110~111、113 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。																
	15	前期総復習	前期で学んだことを総復習し、期末試験に備える。	【事前学習】期末試験に備え、これまでの授業ノートを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。																
実務経験																				
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Reading Adventures 2</td> <td>Carmella Lieske, Scott Menking</td> <td>Heinle Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Reading Adventures 2	Carmella Lieske, Scott Menking	Heinle Cengage Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Reading Adventures 2	Carmella Lieske, Scott Menking	Heinle Cengage Learning																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	<p>全学共通英語課題 30%</p> <p>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%</p> <p>内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験 : 50% ・ 平常点 : 30% ・ 課題 : 10% ・ 小テスト : 10% <p>注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、授業態度 (講義への集中力、投げかける質問に対する呼応、グループ学習への参加、積極性など) を総合的に評価するものであり、出席点ではない。</p>																			
学生への メッセージ	<p>・ 英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです (文法・単語)。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります (リーディング)。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し (リスニング)、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります (スピーキング)。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという 4 つの柱をバランス良く身につけて、ぜひ英語で自分の世界を広げていって下さい。</p> <p>・ 一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時間を使い、集中して取り組んでみて下さい。物事に集中して取り組むと判断力が身につく、それは様々なことを乗り越える力になります。大学の勉強で培うこうした力を使って、将来の夢を叶えていってほしいと思います。</p>																			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室																			
備考	<p>英語力の土台となる基礎を身につける。具体的には基本的な文法、リーディング、スピーキング、ライティング、リスニングの技能を身につけることで、会話やニュースによく出てくるトピック (文化、社会、自然科学) を基本的な英語で理解し、そのトピックに対する自分の意見を基本的な英語で表現する力をつける。授業を通して、英語に苦手意識をもっている学生はそれを無くし、また英語にある程度自信がある学生はさらに自信をつけることで、英語を好きになることを目指す。</p> <p>①5 文型を中心に、英語の基本的な構造を理解する。 ②テキストが</p>																			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松原 万里子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1404c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J[AL.1-A1.2]、後期はCEFR-J[AL.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には、原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方針、評価方法などの説明	テキスト、辞書、スマートフォンを持参すること
	2	Unit 1 The Royal Family	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト1	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	3	Unit 2 The Beatles	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト2	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	4	Unit 3 Very Cold	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト3	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	5	Unit 4 Euro Money	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト4	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	6	Unit 5 To Your Health	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト5	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	7	Unit 6 Recycling	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト6	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	8	Unit 7 The UK 臨時テスト(中間)	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 臨時テスト(Unit 1~6)	該当 Unit の予習、復習 Unit 1~6 までの総復習
	9	Unit 8 A Quiet Life	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト7	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	10	Unit 9 My company	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト8	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	11	Unit 10 Advertising	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト9	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	12	Unit 11 Business Trips	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト10	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	13	Unit 12 Get It Cleaned	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト11	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	14	Unit 13 A Storm	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト12	該当 Unit の予習、復習 The 1500 Core Vocabulary の単語テストの予習
	15	Unit 14 The Media 臨時テスト(最終)	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 臨時テスト(Unit 7~13)	該当 Unit の予習、復習 Unit 7~13 までの総復習
実務経験				

関連科目	他の英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 1 Essential	Terry OBrien	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC TEST Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ	小石 裕子	アルク
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への積極的参加 10% 単語テスト 20% 臨時テスト(中間、最終) 40%			
学生への メッセージ	スマートフォンのアプリケーションを使って、楽しく語彙学習をしましょう。 (ただし、学習目的以外のスマートフォンの使用は認めない。)			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のために資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総合時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	0EN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	・英語の基本構造が理解できるようになる。 ・基本構造が理解できるようになると、相手の言っていることをより正確に理解できるようになり(リスニングおよびリーディング技能の向上)、また自分で言いたいことが英語で表現できるようになる(スピーキングおよびライティング技能の向上)。 ・英検、TOEICなど英語能力試験のスコア向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価の方法を説明。 品詞の確認。	第2講に備え、テキストを購入。
2	Unit 1:Predators and Prey: (A) Hiding from Danger	昆虫の擬態(カモフラージュ)に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.13 を読み、わからない単語を調べておく。P.13 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
3	Unit 1:Predators and Prey: (B) Spider Webs, Video: Spider Webs	蜘蛛の網に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.17 を読み、わからない単語を調べておく。P.17 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
4	Unit 2 : Bionics: (A) Remaking Humans, (B) Making Robots Human	人間工学、ロボット工学に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.23、および P.27 を読み、わからない単語を調べておく。P.23、27 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
5	Review 1 : Tongariro National Park, A Maori Folktale: Maui and the Magic Fishhook	トンガリロ国立公園、ニュージーランドの民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.32~33、および P.35 を読み、わからない単語を調べておく。P.32~33、35 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
6	Unit 3 : Clues about the Past: (A) Earth's Beginning, (B) Deep Sea Vents	地球の黎明期、熱水噴出孔に生息する生き物に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.39、および P.43 を読み、わからない単語を調べておく。P.39、43 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
7	Unit 4 : Survival: (A) When Danger Is Near, (B) Survival at Sea	サバイバル技術、ニック・ワード著『Left for Dead』に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.49、および P.53 を読み、わからない単語を調べておく。P.49、53 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
8	Review 2 : SGang Gwaay, A Haida Folktale: How the Raven Stole the Sun	スカン・グアイ、ハイダ族の民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.58~59、および P.61 を読み、わからない単語を調べておく。P.58~59、61 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
9	Unit 5 : Outer Space: (A) Saturn , (B) To the Moon	土星、アポロ計画に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.65、および P.69 を読み、わからない単語を調べておく。P.65、69 の文章を音読する。 事後学習: 授業ノートを復習。	
10	Unit 6 : The Power of Writing: (A) Writing around the World, (B) Why Do People Read?	文字の歴史、図書館学者のポストウィックに関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.75、および P.79 を読み、わからない単語を調べておく。P.75、79 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
11	Review 3 : The Bend of the Boyne, An Irish Folktale: Aonghus and Caer	ブルー・ナ・ボーニャ、アイルランドの民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。	【事前学習】テキスト P.84~85、および P.87 を読み、わからない単語を調べておく。P.84~85、87 の文章を音読する。	

			音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事後学習】授業ノートを復習。
	12	Unit 7 : Lewis Carroll: (A) The Wonderland of Lewis Carroll, (B) Through the Looking Glass	ルイス・キャロルと『不思議の国のアリス』に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 91、および P. 95 を読み、わからない単語を調べておく。P. 35、95 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	13	Unit 8 : Preserving Heritage: (A) Disappearing Languages, (B) The Hadza	言語の消失、タンザニアのハッザ族に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 101、および P. 105 を読み、わからない単語を調べておく。P. 101、105 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	14	Review 4 : Saryarka, A Kazakh Folktale: Aldar Kose and the Magic Coat	サリャルカ、カザフスタンの民話に関する文章を読む。 文法 (品詞、5 文型) の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 110~111、および P. 113 を読み、わからない単語を調べておく。P. 110~111、113 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	15	後期総復習	後期で学んだことを総復習し、期末試験に備える。	【事前学習】期末試験に備え、これまでの授業ノートを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Adventures 3	Carmella Lieske, Scott Menking	Heinle Cengage Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード	15d17fp			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70% 内訳 (<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験 : 50% ・ 平常点 : 30% ・ 課題 : 10% ・ 小テスト : 10%) 注意 : 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、授業態度 (講義への集中力、投げかける質問に対する呼応、グループ学習への参加、積極性など) を総合的に評価するものであり、出席点ではない。			
学生への メッセージ	・ 英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです (文法・単語)。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります (リーディング)。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し (リスニング)、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります (スピーキング)。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという 4 つの柱をバランス良く身につけて、ぜひ英語で自分の世界を広げていって下さい。 ・ 一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時間を使い、集中して取り組んでみて下さい。物事に集中して取り組むと判断力が身につく、それは様々なことを乗り越える力になります。大学の勉強で培うこうした力を使って、将来の夢を叶えていってほしいと思います。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室			
備考	英語力の土台となる基礎を身につける。具体的には基本的な文法、リーディング、スピーキング、ライティング、リスニングの技能を身につけることで、会話やニュースによく出てくるトピック (文化、社会、自然科学) を基本的な英語で理解し、そのトピックに対する自分の意見を基本的な英語で表現する力をつける。授業を通して、英語に苦手意識をもっている学生はそれを無くし、また英語にある程度自信がある学生はさらに自信をつけることで、英語を好きになることを目指す。 ①5 文型を中心に、英語の基本的な構造を理解する。 ②テキストが			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松原 万里子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方針、評価方法などの説明	テキスト、辞書、スマートフォンを持参すること
	2	Unit 1 Our Aging Society	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト1	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	3	Unit 2 Holiday Memories	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト2	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	4	Unit 3 Sport	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト3	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	5	Unit 4 Foreign Workers	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト4	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	6	Unit 5 Lifestyles	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト5	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	7	Unit 6 Sizes	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト6	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	8	Unit 7 Bathrooms 臨時テスト(中間)	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 臨時テスト(Unit 1~6)	該当Unitの予習、復習 Unit 1~6までの総復習
	9	Unit 8 Weather and Global Warming	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト7	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	10	Unit 9 Recycling	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト8	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	11	Unit 10 Commuting	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト9	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	12	Unit 11 Crumbling Britain	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト10	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	13	Unit 12 Advertising	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト11	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	14	Unit 13 Technology and Us	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト12	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	15	Unit 14 Cars 臨時テスト(最終)	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 臨時テスト(Unit 7~13)	該当Unitの予習、復習 Unit 7~13までの総復習
実務経験				

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 2 Pre Intermediate	Terry OBrien	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ	小石 裕子	アルク
	2			
	3			
授業形態	Moodle/Zoom			
Teams コード	506zu57			
Moodle コース名 および登録キー	10E2001802 月4 基礎英語IIa (松原クラス) 10E2001802			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への積極的参加 10% 単語テスト 20% 臨時テスト(中間、最終) 40% (今期はオンラインで実施する。)			
学生への メッセージ	スマートフォンのアプリケーションを使って、楽しく語彙学習をしましょう。 (ただし、学習目的以外のスマートフォンの使用は認めない。) 単語テストの範囲は、前週の授業で指示します。			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室 対面授業ができない期間は、下記のメールアドレスまで連絡して下さい。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺脇 圭子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1405c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	・ Lesson 7 Health & Illness (2)	・ Wh 疑問文① ・ 英作文 ・ ペアワーク	・ Lesson 7 の復習
3	・ Lesson 7 小テスト ・ Lesson 8 Shopping (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ オンラインショッピングのフォーム ・ Listening	・ 授業の復習 ・ 英作文の予習
4	・ Lesson 8 Shopping (2)	・ Wh 疑問文② ・ 不加算名詞の数え方 ・ 英作文 ・ ペアワーク	・ Lesson 8 の復習
5	・ Lesson 8 小テスト ・ Lesson 9 Leisure (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ Reading ・ Listening	・ 授業の復習
6	・ Lesson 9 Leisure (2)	・ 時の表現 ・ Listening ・ ペアワーク ・ 英作	・ Lesson 9 の復習
7	・ Lesson 9 小テスト ・ Lesson 10 College Life (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ Reading (メール) ・ Listening	・ 授業の復習
8	・ Lesson 10 College Life (2)	・ 単語・フレーズ ・ Listening ・ 助動詞 ・ ペアワーク	・ Lesson 10 の復習
9	・ Lesson 10 小テスト ・ Lesson 11 Countries (1)	・ 小テスト ・ 国・都市名 ・ 地図の読み取り ・ Listening ・ 天気	・ 授業の復習
10	・ Lesson 11 Countries (2)	・ 比較と最上級 ・ ペアワーク	・ Lesson 11 の復習
11	・ Lesson 11 小テスト ・ Lesson 12 Taking a Trip (1)-1	・ 小テスト ・ 国・都市名 ・ Listening	・ 授業の復習
12	・ Lesson 12 Taking a Trip (1)-2	・ 単語・フレーズ(旅行) ・ Listening ・ ペアワーク ・ 英作文	・ Lesson 12 の復習
13	・ Lesson 12 小テスト ・ Lesson 13 Taking a Trip (2)-1	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ チケットの読み取り	・ 授業の復習
14	・ Lesson 13 Taking a Trip (2)-2	・ Reading ・ 英作文	後期の総復習 (1)
15	・ 総復習 ・ まとめテスト	・ 後期の総復習 ・ まとめテスト	後期の総復習 (2)

実務経験													
関連科目	他の英語科目												
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>LET'S MAKE IT SIMPLE!</td> <td>森田和子/高橋順子/北本洋子</td> <td>株式会社 三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	番号	書籍名	著者名	出版社名									
1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社										
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂										

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle/Web Folder			
Teams コード	6dy6mf6			
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語 IIa 3 組 月 4/2020 後期 anteater5newt			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題	30%		
	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	70%		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回辞書を持参する事 ・ 授業中の携帯電話の使用を禁止する 			
担当者の 研究室等	1号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English I Ib
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺脇 圭子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけではなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J [A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	・ Lesson 7 Health & Illness (2)	・ Wh 疑問文① ・ 英作文 ・ ペアワーク	・ Lesson 7 の復習
3	・ Lesson 7 小テスト ・ Lesson 8 Shopping (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ オンラインショッピングのフォーム ・ Listening	・ 授業の復習 ・ 英作文の予習
4	・ Lesson 8 Shopping (2)	・ Wh 疑問文② ・ 不加算名詞の数え方 ・ 英作文 ・ ペアワーク	・ Lesson 8 の復習
5	・ Lesson 8 小テスト ・ Lesson 9 Leisure (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ Reading ・ Listening	・ 授業の復習
6	・ Lesson 9 Leisure (2)	・ 時の表現 ・ Listening ・ ペアワーク ・ 英作	・ Lesson 9 の復習
7	・ Lesson 9 小テスト ・ Lesson 10 College Life (1)	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ Reading (メール) ・ Listening	・ 授業の復習
8	・ Lesson 10 College Life (2)	・ 単語・フレーズ ・ Listening ・ 助動詞 ・ ペアワーク	・ Lesson 10 の復習
9	・ Lesson 10 小テスト ・ Lesson 11 Countries (1)	・ 小テスト ・ 国・都市名 ・ 地図の読み取り ・ Listening ・ 天気	・ 授業の復習
10	・ Lesson 11 Countries (2)	・ 比較と最上級 ・ ペアワーク	・ Lesson 11 の復習
11	・ Lesson 11 小テスト ・ Lesson 12 Taking a Trip (1)-1	・ 小テスト ・ 国・都市名 ・ Listening	・ 授業の復習
12	・ Lesson 12 Taking a Trip (1)-2	・ 単語・フレーズ(旅行) ・ Listening ・ ペアワーク ・ 英作文	・ Lesson 12 の復習
13	・ Lesson 12 小テスト ・ Lesson 13 Taking a Trip (2)-1	・ 小テスト ・ 単語・フレーズ ・ チケットの読み取り	・ 授業の復習
14	・ Lesson 13 Taking a Trip (2)-2	・ Reading ・ 英作文	後期の総復習(1)
15	・ 総復習 ・ まとめテスト	・ 後期の総復習 ・ まとめテスト	後期の総復習(2)

実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	LET'S MAKE IT SIMPLE!	森田和子/高橋順子/北本洋子	株式会社 三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle/Web Folder			
Teams コード	gmvgldq			
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語 IIb 1組 月 5/2020 後期 raccoon0swan			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	まとめテスト	30%		
	課題・小テスト	40%		
	授業への参加、貢献		30%	
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回辞書を持参する事 ・授業中の携帯電話の使用を禁止する 			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	英語力の土台となる基礎を身につける。具体的には農業、家畜、食材といった食をめぐるトピックを通して、英語の基本的な文法、リーディング、スピーキング、ライティング、リスニングの技能を習得する。農学という自らの専門について、情報や意見を英語で取り入れ、また農学に関する自分の意見を英語で表現・発信できるようになることを目指す。
到達目標	①5文型を中心に、英語の基本的な構造を理解する。 ②農業、家畜、食に関するトピックについて、基本的な英語で理解できるようになる。 ③教員やクラスメイトが表現する基本的な英語を聞き取り(リスニング)、また自分の意見を基本的な英語を用いて教員やクラスメイトに伝えることができるようになる(スピーキング)。
授業方法と留意点	<p>=授業方法=</p> <ul style="list-style-type: none"> 各講義を消化するという事はすなわち、テキストの文章の内容を理解し(リーディング)、文章を構成する各文の簡単な構造がわかり(文法)、文章内の単語の意味がわかり(語彙力)、テキストの文章を音読することができ(スピーキング)、トピックに沿った英語を聞き取ることができ(リスニング)、講義毎で紹介する英語表現を用いて英文を作成することができる(ライティング)ようになること。そのために予めテキストに目を通し、わからない単語を事前に調べるといった予習は効果的だが、むしろ各講義をしっかり復習することに努めてほしい。 講義毎にA3用紙1枚の授業ノートを配布する。授業内にノートの空欄箇所を全て埋めることを目指そう。また復習を効果的にするためには、教員の説明の中で重要だと感じた点について、ノートの余白部分に積極的にメモしていくのがポイント。 授業中は文章の音読や、テキストおよび授業ノート内の質問に答えることが求められる。担当者は基本的に教員が指名するが、自発的な発言も求めていくので、間違えを恐れずぜひ自ら進んで発言してほしい。 <p>=留意点=</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則として出席率80%以上の学生のみを成績の対象とする。4回以上欠席した学生の評価は「評価不能」となる。チャイムが鳴る前に、着席しておくこと。30分を過ぎてからの遅刻は、原則として欠席扱いとする。 テキストは必ず購入し、講義毎に持参すること。テキストの持参を忘れた場合、平常点の減点対象となる。 講義中の私語、スマートフォンの使用、睡眠などは大幅な平常点の減点対象。特に授業の進行の妨害となるものや、他の学生の集中力を奪うような行為は欠席とみなすだけでなく、途中退室を求めることがある。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 英語の基本構造が理解できるようになる。 基本構造が理解できるようになると、相手の言っていることをより正確に理解できるようになり(リスニングおよびリーディング技能の向上)、また自分で言いたいことが英語で表現できるようになる(スピーキングおよびライティング技能の向上)。 英検、TOEICなど英語能力試験のスコア向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション Chapter 1: Understanding the True Cost of Food	授業の進め方、成績評価の方法を説明。 品詞の確認。 食材とその対価に関する文章を読む。	第2講に備え、テキストを購入。
	2	Chapter 2: The Modern vs. the Stone Age Diet	現代と石器時代の食生活を比較した文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.10~12を読み、わからない単語を調べておく。P.10~12を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	3	Chapter 3: Agriculture	農業に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.14~16を読み、わからない単語を調べておく。P.14~16を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	4	Chapter 4: Animal Domestication	家畜に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.18~20を読み、わからない単語を調べておく。P.18~20を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	5	Chapter 5: Life on the Farm	農場の生活に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.22~24を読み、わからない単語を調べておく。P.22~24を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	6	Chapter 6: The Kill	畜殺に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.26~28を読み、わからない単語を調べておく。P.26~28を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	7	Chapter 7: Case Study 1: Meat	肉(ケーススタディ1)に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.30~32を読み、わからない単語を調べておく。P.30~32を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	8	Chapter 8: Case Study 2: Corn	とうもろこし(ケーススタディ2)に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキストP.34~36を読み、わからない単語を調べておく。P.34~36を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	9	Chapter 9: Case Study 3: Food from the Sea	魚介類(ケーススタディ3)に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。	【事前学習】テキストP.38~40を読み、わからない単語を調べておく。P.38~40を音読する。 事後学習: 授業ノートを復習。

			英作文。 ペアワーク。	
10	Chapter 10: Preservatives and Culture	食材の保存に関する文章を読む。 文法（品詞、5文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 42～44 を読み、わからない単語を調べておく。P. 42～44 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
11	Chapter 11 : Plant Domestication	野菜・果物栽培に関する文章を読む。 文法（品詞、5文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 46～48 を読み、わからない単語を調べておく。P. 46～48 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
12	Chapter 12: The Complexity of Taste	味覚・味付けに関する文章を読む。 文法（品詞、5文型）の学習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 50～52 を読み、わからない単語を調べておく。P. 50～52 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
13	Chapter 13: Eating Oil	旬ではない食材の提供と、その対価である石油に関する文章を読む。 文法（品詞、5文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 54～56 を読み、わからない単語を調べておく。P. 54～56 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
14	Chapter 14: Meat's Impact on the Environment	肉と環境へのインパクトに関する文章を読む。 文法（品詞、5文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 58～60 を読み、わからない単語を調べておく。P. 58～60 を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。	
15	Chapter 15: Conclusion 後期総復習	食に関するまとめの文章を読む。 後期で学んだことを総復習し、期末試験に備える。	【事前学習】テキスト P. 62～64 を読み、わからない単語を調べておく。P. 62～64 を音読する。期末試験に備え、これまでの授業ノートを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。	

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Food: Some Deeper Insights into What We Eat	Paul Stapleton	Heinle Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態 Web Folder

Teams コード rxxabde

Moodle コース名

および登録キー

連絡手段 学内メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

メールアドレス :

- ・期末試験：50%
- ・平常点：30%
- ・課題：10%
- ・小テスト：10%

注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、授業態度（講義への集中力、投げかける質問に対する呼応、グループ学習への参加、積極性など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。

学生へのメッセージ
・英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです（文法・単語）。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります（リーディング）。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し（リスニング）、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります（スピーキング）。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという 4 つの柱をバランス良く身につけて、ぜひ英語で自分の世界を広げていってください。

・一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時間を使い、集中して取り組んでみて下さい。物事に集中して取り組むと判断力が身につく、それは様々なことを乗り越える力になります。大学の勉強で培うこうした力を使って、将来の夢を叶えてほしいと思います。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師控室

備考

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松原 万里子
ディプロマポリシー(DP)	DP8○		
科目ナンバリング	OEN1406c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけることを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 前期はCEFR-J[A1.1-A1.2]、後期はCEFR-J[A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning課題や、そのほかの授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には、原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検など

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
		1	オリエンテーション	授業方針、評価方法などの説明
授業計画	2	Unit 1 Our Aging Society	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト1	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	3	Unit 2 Holiday Memories	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト2	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	4	Unit 3 Sport	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト3	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	5	Unit 4 Foreign Workers	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト4	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	6	Unit 5 Lifestyles	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト5	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	7	Unit 6 Sizes	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト6	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	8	Unit 7 Bathrooms 臨時テスト(中間)	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 臨時テスト(Unit 1~6)	該当Unitの予習、復習 Unit 1~6までの総復習
	9	Unit 8 Weather and Global Warming	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト7	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	10	Unit 9 Recycling	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト8	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	11	Unit 10 Commuting	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト9	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	12	Unit 11 Crumbling Britain	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト10	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	13	Unit 12 Advertising	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト11	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
	14	Unit 13 Technology and Us	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 単語テスト12	該当Unitの予習、復習 単語テストの予習
		15	Unit 14 Cars 臨時テスト(最終)	語彙、文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング 演習と解説 臨時テスト(Unit 7~13)
実務経験				

関連科目	他の英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Indicator 2 Pre Intermediate	Terry OBrien	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC TEST Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC(R) TEST 英文法 出るところだけ	小石 裕子	アルク
	2			
	3			
授業形態	Moodle/Zoom			
Teams コード	0mh9a67			
Moodle コース名 および登録キー	10E2001903 月5 基礎英語 II b (松原クラス) 10E2001903			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	学期末課題 30% 授業への積極的参加 10% 単語テスト 20% 臨時テスト(中間、最終) 40%			
学生への メッセージ	スマートフォンのアプリケーションを使って、楽しく語彙学習をしましょう。 (ただし、学習目的以外のスマートフォンの使用は認めない。) 単語テストの範囲は、前週の授業で指示します。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 1号館2階非常勤講師室 対面授業ができない期間は、下記のメールアドレスまで連絡して下さい。			
備考	毎回の授業のために資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総合時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎		
科目ナンバリング	OIL1414a2		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：摂南大学の ICT 環境の確認 (1 時間)
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	8号館1階 (非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP3○		
科目ナンバリング	OIL1415a2		

授業概要・目的	大学生生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書		番号	書籍名	著者名
		1		
		2		
		3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder 初回から両方使用			
Teams コード	2c0t2zw			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (60%)、模擬試験や総合課題などの演習 (30%)、学生間の相互発表等 (10%) を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (8号館1階)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。			

科目名	スポーツ科学 I	科目名 (英文)	Sports Science I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀧 千波・小寺 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1416a2		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②運動技能を向上させることができる ③マナーやルールを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodle の 2 つの ICT ツールを使用する。 実技および講義教材を用いて一定期間内に学修し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	履修上の注意など (講義室)	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。
2	体力測定①	体力測定 屋外種目 (グラウンド)	測定記録評価
3	体力測定②	体力測定 体育館種目 (体育館)	測定記録評価
4	体力測定③ 体力測定集計・評価	体力測定 屋外種目 (グラウンド) 体力測定の集計・評価 (講義室)	測定記録評価 各自の体力要素を評価すると共に、今後の課題・解決方法を理解する。
5	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
6	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
7	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
8	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
9	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
10	運動・スポーツが心身へ与える影響とそのメカニズム	講義 (講義室) 運動・スポーツが心身へ及ぼす影響について、運動生理学・運動生化学観点から学修する。	事前: 一般人における運動の必要性について調べる。 事後: 授業で学んだ内容を、どのように臨床へ応用できるか考え、レポートする。
11	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
12	各コース別実技 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習 (グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
13	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
14	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り
15	各コース別実技 ゲーム	技術練習とゲーム (グラウンドおよび体育館)	事前: 応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り、本授業の総まとめ

実務経験	
------	--

関連科目	人体の構造と機能 I、II、III、IV
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	活動点 50%、課題点 50% として、総合評価する。
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用すること

科目名	スポーツ科学Ⅱ	科目名(英文)	Sports Science II
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 渡部 将之
ディプロマポリシー(DP)	DP6○		
科目ナンバリング	OPH1417a2		

授業概要・目的	「スポーツ科学Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>スポーツ科学Ⅰよりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	①健康の維持・増進をはかる ②生涯スポーツへ継続できる ③運動・スポーツの役割や、それらが生体へ及ぼすメカニズムについて理解できる ④多様な背景をもつ人々に対する運動・スポーツの実践方法を身につける
授業方法と留意点	メンバーを2コースに分け、グラウンドにおいて行う。 開講種目は、フットサル、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど 雨天などの際は、屋内種目を行う場合もある。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進およびスポーツ技術を修得できる。 「汎用的技能」: コミュニケーション・スキル、問題解決力。「態度」: 自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観。「創造的思考力」: 課題解決能力を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	履修上の注意など(講義室) コース分け	ルールの理解。 運動・スポーツの役割および重要性について疫学・基礎・実践研究の観点から理解する。 (事後学習時間 30分)
2	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
3	各コース別実技① 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
4	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
5	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
6	各コース別実技① ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
7	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
8	各コース別実技② 基礎練習・簡易ゲーム	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
9	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
10	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
11	各コース別実技② ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
12	各コース別実技③ 基礎練習・簡易ゲーム	ルールの説明、基礎技術練習(グラウンドおよび体育館)	事前: スポーツのルール 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
13	各コース別実技③ ゲーム	基礎技術練習、攻防練習(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
14	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 内容の振り返り (事前事後学習時間 30分)	
15	各コース別実技③ ゲーム	技術練習とゲーム(グラウンドおよび体育館)	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集 事後: 本科目の振り返り (事前事後学習時間 30分)	

実務経験				
関連科目	スポーツ科学Ⅰ、栄養とスポーツ、栄養と健康			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業			
Teams コード	alshgkj			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール）			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	平常点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。			
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。			
担当者の 研究室等	8号館3階 食品栄養学科 運動生理学研究室			
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 萍萍
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1418a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。</p> <p>【授業目的】 本講義の目的は下記の3つである。 1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 3) 自己を探索するための手がかりをつかめるようにする。</p>
到達目標	<p>本講義の具体的な到達目標として以下の3点を挙げる。 1) 「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 現実場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> Teams と Moodle を用いた遠隔授業で行う。 受講生は、必ず毎週各自 PC やスマホなどを利用して、Teams や Moodle にアクセスすること。
科目学習の効果 (資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。教科書第10章を予習してください。
3	心と脳	心と脳、脳と行動、脳の特徴・構造、部位の損傷と症状、脳波と自律系反応、睡眠と夢、記憶と脳、発達と脳について解説します。	脳に関する写真・ビデオなどを図書館などで見つけ、授業内容を映像で理解してください。3D Brain というアプリをダウンロードして、脳の各構造と機能を学習してください。
4	感覚と知覚(1)	感覚(視覚・聴覚・味覚・嗅覚・皮膚感覚)の種類と特性、感覚の役割・相互作用・基本特性について解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。
5	感覚と知覚(2)	知覚の体系化、知覚の恒常性、距離・奥行き、動きの知覚、知覚から認知へについて解説します。	教科書の第5章を事前に予習してください。「錯覚」の例を調べてきてA4 1枚のレポートにまとめましょう。
6	学習	学習とは、学習の方法、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、二つの条件付けの違いについて解説します。	教科書第4章の前半を事前に予習してください。例を挙げながら、二つの条件付けの違いについてレポートにまとめましょう。
7	記憶	記憶の過程、短期記憶、長期記憶、系列位置効果、忘却のメカニズムについて解説します。	教科書第4章の後半を事前に予習してください。
8	思考と言語	演繹推論と帰納推論、問題解決、概念とカテゴリ化について解説します。	教科書第6章を事前に予習してください。
9	動機づけと情動	動機付けの分類、達成と自己実現の動機づけ、フラストレーションと葛藤、情動の種類、情動の認知評価説について解説します。	教科書第7章を事前に予習してください。
10	パーソナリティ	精神分析学とパーソナリティ、外見とパーソナリティ、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書第8章を事前に予習してください。事前に自身のパーソナリティがどのようなものであるかについて、すぐ答えられるようになっておいてください。
11	発達	遺伝と環境、行動発達を規定する要因、発達の変化、発達障害について解説します。	教科書第3章を事前に予習してください。
12	社会的認知	自己の認知(自我と自己、自己評価)、印象形成、帰属過程、クリーの共変動モデルについて解説します。	教科書第9章前半を事前に予習してください。
13	対人魅力と対人関係	対人魅力の規定要因、自己開示と自己呈示について解説します。	教科書第9章9.5を事前に予習してください。
14	社会的影響と集団	態度と説得、社会的促進、社会的な手抜き、同調、少数派集団の影響、集団意思決定について解説します。	教科書第9章9.3と9.4と9.6を事前に予習してください。これまでの授業テーマを見直し、最も興味のあるもの、そしてそれに関わる現象について考えてみてください。
15	まとめ	授業全体のまとめ	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

実務経験				
関連科目	後期の「心理学Ⅱ」もあわせて取ることを推奨します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学 [第5版]	鹿取廣人など	東京大学出版
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学	無藤隆など	有斐閣
	2	心理学概論	岡市廣成・鈴木直人（編）	ナカニシヤ出版
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	【授業内テスト】40% 【授業課題】30% 【教科書を用いた課題（小レポート）】30% ※授業内テストは開講日時から1週間の間しか受験できません。 ※課題に関しては締切があります。締切を必ず守ること。			
学生への メッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出、私語等は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 配布された資料は各自で管理を行ってください。再配布等は致しません。 前回授業の資料を参照する場合がありますので、直近の授業で配布された資料は持参するように心がけてください。 授業内課題等の提出は、当該授業時間内のみ受け付けます。授業時間外は一切受け付けません。			

科目名	倫理学	科目名 (英文)	Ethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1419a2		

授業概要・目的	<p>「他の人のためと思ってやっていることも、実際のところは自分のためでしかないのでは?」「自分よりも困っている人が世界中にいると知っていながら、彼らに寄付せずに自分の買いたいものを買うのは非情なことだろうか?」「価値観は人や文化によって違い優劣はないとしたら、他人にアドバイスしたり批判することは余計なこと、失礼なことだろうか?」</p> <p>このようなことは、別に倫理学者や哲学者でなくとも、誰もがふとしたときに考えたことがある??人によってはよく考えている??ことなのではないかと思います。本授業ではこのような身近なテーマから出発し、現代社会の諸問題(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー等)に関してこれまでどのような理論や主張がなされてきたかを学び、自分自身の立場・主張について深めることが目的です。</p>
到達目標	<p>1. 授業で扱う現代社会の諸テーマ(中絶、安楽死、同性愛、動物の権利、文化相対主義、ジェンダー、宗教と道徳の関係、非利己性、寄付の義務等)について『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』(ジェームズ・レイチェルズ著、晃洋書房)の議論を参考に、専門的な論点を理解する。</p> <p>2. 上記の諸問題に関して自分なりの考えをまとめる。</p> <p>(※授業ではプリントを配布しますので、『現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで』の購入は必須ではありません)</p>

授業方法と留意点	<p>【授業形式】 毎回プリントを配布し、それに基づく講義を中心とする。しかし、特定のテーマについてピア・ディスカッション(机の隣の人との議論)をしてもらうことがある。また、授業内容に関する小問題を授業中に解いてもらうことがある。</p> <p>【講義時間内のスケジュール(予定)】 前回のコメントシートへの返答(10-20分) コメントシート配布(小問題を配布する場合もある)、今回の講義のポイント解説(10分-20分) 講義(50分程度) コメントシート提出(5分)</p>
----------	---

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	道徳とはどういうことか	<ul style="list-style-type: none"> 道徳は定義できるのか 道徳の最小概念 回復の見込みのない乳児をどのように扱うべきか 	<p>事前：特になし</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>
2	文化的相対主義	<ul style="list-style-type: none"> 異なる文化はいかにして道徳規範を持つのか 文化的相対主義を本気で受け止めるようになるか 文化的相対主義から何を学ぶことができるか 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
3	倫理における主観主義	<ul style="list-style-type: none"> 倫理学に証明はあるのか 同性愛の問題 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
4	道徳は宗教に基づくか	<ul style="list-style-type: none"> 道徳と宗教の関係 道徳は神の命令か キリスト教と中絶の問題 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
5	心理学的利己主義	<ul style="list-style-type: none"> 非利己性は可能か 「どんなことも結局自分のためではない」という主張は本当か 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
6	倫理的利己主義	<ul style="list-style-type: none"> 飢餓救済に寄付する義務はあるのか 「何が人のためになるかは難しい」「自分のためになることだけをやるべきである」という主張は本当か 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
7	功利主義者のアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 安楽死の問題 動物の権利の問題 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
8	功利主義をめぐる議論	<ul style="list-style-type: none"> 幸福の問題 結果がすべてか 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
9	絶対的道徳規則はあるのか	<ul style="list-style-type: none"> 普遍的な道徳は可能か 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
10	カントと人格の尊重	<ul style="list-style-type: none"> 「人間の尊厳」という考え 刑罰の理論における応報と功利性 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
11	社会契約の思想	<ul style="list-style-type: none"> ホプズの主張 囚人のジレンマ 市民的不服従についての問題 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)</p>	
12	フェミニズムと気づかひの倫理	<ul style="list-style-type: none"> 女と男は倫理についての考えが違うか 	<p>事前：前回配布した参考文献を読んできると</p> <p>事後：配布した穴埋めプリントの復習</p>	

				(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	13	徳の倫理	<ul style="list-style-type: none"> 徳の倫理と正しい行動の倫理 様々な徳 	事前：前回配布した参考文献を読んてくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	14	満足のいく道徳説とはいかなるものか	<ul style="list-style-type: none"> 思い上がりのない道徳 道徳共同体 正義と公正 	事前：前回配布した参考文献を読んてくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 講義のまとめ 	事前：前回配布した参考文献を読んてくる 事後：配布した穴埋めプリントの復習 (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現実をみつめる道徳哲学—安楽死からフェミニズムまで	ジェームズ・レイチェルズ	晃洋書房
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	期末試験：60% 授業中の課題：40%			
学生への メッセージ	答えがないと言われて久しい現代社会を生きる上で、簡単に消費されず、長い間参考になるであろう知見を得ることができたと思ってもらえれば幸いです。			
担当者の 研究室等	非常勤講師控室			
備考	<p>参考書等は授業時に適宜紹介します。質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。 非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールでお問い合わせください。</p> <p>連絡先： 貫井隆 nukui.takashi.54n★kyoto-u.jp ★は@に変えてください</p> <p>評価基準の40%である「授業中の課題」について： 「授業内容に関する小問題」を授業中に出题しますので、それによって評価します。 「授業内容に関する小問題」を実施する日時は授業中に連絡します</p>			

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 俊, 担当者未定
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1420a2		

授業概要・目的
ある事柄が「科学的に正しい」と言われたら、私たちはつい、それが絶対的に正しいのだと思ってしまいがちです。ところがそれにもかかわらず、私たちは日常生活の上では、「科学的に」正しいだけではなく、「将来的に」「倫理的に」「文脈的に」等々、多くの見方を総合して正しいと思われる行動をとらなければなりません。つまり私たちは、科学を単一の基準にして生活することはできないのです。そして、複数の基準は互いに相容れないこともあります。そのため、人生においては正しいか間違っているのか、一概には言えない場面に出くわることになります。こうした割り切れない状況に向き合うために人は「様々な見方同士がどのようにして関わり合っているのか」ということを考えてきました。この営みは「哲学」と呼ばれています。本講義では、その哲学において歴史上どのような問題と考え方が登場したのか、ということを見ていきます。

到達目標
1. 一つの物事には多様な見方が存在するということを学ぶ
2. 哲学の歴史と学説に関する基礎的な知識を学ぶ

授業方法と留意点
「教材・課題提供型授業」の形式で実施する。毎回授業終わりにコメントを提出してもらい (方法は初回授業で指示する)、次回の授業冒頭でそれに対する応答を行う。

科目学習の効果 (資格)
哲学的思考を用いて物事を立体的に理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	講義の進め方や評価基準等の確認	予習: シラバスに目を通しておく 復習: 哲学について考える (1 時間)
2	哲学の始まり	イオニアの自然哲学	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
3	古代ギリシアにおける知の体系 (1)	プラトンにおける知の分類	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
4	古代ギリシアにおける知の体系 (2)	アリストテレスの目的論的自然観	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
5	古代ギリシアにおける知の体系 (3)	アリストテレス以降の学問区分	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
6	数値化・機械化された自然 (1)	ペイコンの帰納法とガリレイの科学	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
7	数値化・機械化された自然 (2)	デカルトにおける精神と物体	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
8	数値化・機械化された自然 (3)	ロックの所有権	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
9	世界と精神 (1)	スピノザにおける神と人間	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
10	世界と精神 (2)	ライプニッツのモナド	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
11	世界と精神 (3)	カントにおける合目的性	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
12	歴史の展開と知 (1)	ルソーの自然状態	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
13	歴史の展開と知 (2)	ヘーゲルの弁証法	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
14	歴史の展開と知 (3)	フッサールの生活世界	予習: 主題となる人物と時代について調べておく (1 時間) 復習: 講義ノートを見直す (1 時間)
15	まとめ	講義全体を振り返る	予習・復習: 講義ノートを見直す (計 2 時間)

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学マップ	貫成人	筑摩書房
2	科学的精神の形成	ガストン・バシュラール	平凡社	
3				

授業形態

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	試験 80%、授業内課題（コメント）20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	一見して奇妙に見える意見も、必ず発言者なりの見方や考え方に基づいています。これは親しい友人でもはるか昔の哲学者でも同じことことです。見慣れない考え方に粘り強く接することによって、人生の可能性（生きている間にできること）が広がります。
担当者の 研究室等	
備考	講義に関する質問等は授業前後に教室または非常勤講師控室にて対応します。

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡邊 英明
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1421a2		

授業概要・目的	地誌学は、地域を構成する諸要素を体系的に捉え、その特色を解明しようとする分野で、系統地理学（人文地理学・自然地理学）とともに地理学の根幹を成す。本講義では、世界各地における自然環境と人間生活との関わりを通して、地域の特色を学習する。
到達目標	さまざまな地域における固有の人間生活とその重要性を理解し、自らが生きる社会について相対的に捉える視点を身につける。
授業方法と留意点	講義内容を収録した音声付パワーポイントをオンデマンド配信する。音声付パワーポイントは、Moodle にアップロードする。
科目学習の効果（資格）	中学社会・高校地理歴史教員免許

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方	講義ノートを復習しておくこと（事後学習 3 時間）
2	熱帯気候と住民生活 (1)	熱帯雨林とサバンナ	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
3	熱帯気候と住民生活 (2)	熱帯雨林の近年の変化	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
4	熱帯気候と住民生活 (3)	タンザニアのコーヒー生産	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
5	熱帯気候と住民生活 (4)	熱帯雨林の狩猟採集民	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
6	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (1)	砂漠と季節河川	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
7	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (2)	砂漠ゾウと地域住民	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
8	乾燥・半乾燥気候と住民生活 (3)	乾燥地帯で生きる人々	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
9	寒帯・冷帯気候と住民生活 (1)	氷河地形と人々の暮らし	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
10	寒帯・冷帯気候と住民生活 (2)	極北の狩猟民・イヌイット	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
11	寒帯・冷帯気候と住民生活 (3)	山岳地帯の住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
12	温帯気候と住民生活 (1)	ヨーロッパの自然と住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
13	温帯気候と住民生活 (2)	先進国の都市問題	教科書の該当ページを復習しておくこと（事後学習 1.5 時間）
14	温帯気候と住民生活 (3)	日本の自然と住民生活	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 1.5 時間、事後学習 1.5 時間）
15	試験（授業内で実施）	試験	教科書の該当ページを読んでおくこと（事前学習 3 時間）

実務経験	
関連科目	人文地理学、自然地理学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界がわかる地理学入門	水野一晴	筑摩書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Moodle
Teams コード	eng162q
Moodle コース名 および登録キー	2020 地誌学（金 2・渡邊） cdvSNnUbycqsQjZgeb
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 （基準）	試験 70%、授業内課題 30%
学生への メッセージ	試験および授業内課題は、いずれも Moodle で実施する。 高校で地理（A・B）を履修していない人も問題なく受講できます。授業内容を正しく理解するため、毎回ノートを取りながら集中して受講してください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）。質問等は学内メールにて対応する。
備考	

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1422a2		

授業概要・目的	現代世界・社会の諸問題に地理学がどのように向き合っているかを考えるにあたり、具体的な事例を通して主要な人文地理学の研究成果とアプローチを紹介する。
到達目標	<地理学的なものの見方・考え方>について理解し、それをふまえ、身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。授業中に何度か課題を出す。それらの課題に取り組むことで、授業内容をしっかりと復習してほしい。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	地図の読解	様々な地図の読解と理解について	紹介した参考文献を読む(事後学習) テーマに沿った地図(身近な地域の地図またはメンタルマップ)作成の課題に取り組む(事後学習)(2時間)
3	都市の空間現象	都市の歴史、現代の都市で生じる様々な現象と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
4	農村の現状と課題	農業地理学の基礎と農村の成り立ちと現状、課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
5	経済地理学①工業	工業立地の歴史と現状、将来の変化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
6	経済地理学②農業	日本と世界の農業の現状と課題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
7	経済地理学③商業・流通	事業所の立地と流通システム、および経済のグローバル化について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
8	環境問題と地理学	様々なスケールから見た環境問題について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
9	災害と地理学	災害と人間活動との関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
10	社会問題と地理学	日本と世界の主な社会問題の空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
11	ジェンダーの地理学	ジェンダーをめぐる空間現象について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
12	空間と政治	都市における空間の管理と政治的背景について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
13	文化の広がり	文化と社会の関わりについて	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
14	生活世界の認識	メンタルマップ、時間地理学について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。
15	まとめ	授業の総括と定期試験について	紹介した参考文献を読む(事後学習)(2時間)。 紹介した事例と関連するニュースを確認する(事後学習)(1時間)。

実務経験	
関連科目	「自然地理学」「地誌学」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
2	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店	
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
Teamsコード	mcy6ky6

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	dankebitte0605@gmail.com
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート70%、平常点30% (平常課題を何度か課す。)
学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中の私語、飲食、携帯操作は禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命ずることがある。 2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。 3. 中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。 4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆を数色準備しておくこと。
担当者の 研究室等	
備考	授業外の質問等については、出校日に対応する。

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	星 優也
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	OHU1423a2		

授業概要・目的	この授業では、おもに古代から中世の文学作品について、とくに代表的なものに触れる。『古事記』、『竹取物語』、『今昔物語集』、『源氏物語』、『平家物語』、『太平記』など、一度は聞いたことがある作品についての基本的な知識を学び、原文に触れることで日本の代表的な古典文学について知る。																																																																		
到達目標	古文への苦手意識をなくし、物語の面白さに触れる。 作品に触れ、その特徴について説明できる。 古典文学の流れを理解する。																																																																		
授業方法と留意点	基本的に一つの作品について前編・後編の2回に分けて講義するため、必ず参加すること。 プリントを配布するため、適切に管理すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日本を代表する古典文学に関する知識と理解が深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンスー文学を学ぶとはー</td> <td>授業の内容説明と進め方について。</td> <td>(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『古事記』と『日本書紀』①</td> <td>「日本神話」で知られる『古事記』と『日本書紀』に触れる。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>『古事記』と『日本書紀』②</td> <td>『古事記』と『日本書紀』の違いを学ぶ。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>『風土記』と神話・昔話①</td> <td>風土記の中で代表的な神話に触れる。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>『風土記』と神話・昔話②</td> <td>風土記の世界その2。特に「浦島太郎」の話を取り上げる。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>『竹取物語』の世界</td> <td>「かぐや姫」の物語を原文から触れる。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>『源氏物語』を知る①ー光源氏の物語ー</td> <td>『源氏物語』の物語に触れる。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>『源氏物語』を知る②ー宇治十帖の世界ー</td> <td>『源氏物語』後半の物語に触れる。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説話集の世界①ー『日本霊異記』ー</td> <td>『日本霊異記』の代表的な説話に触れる。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>説話集の世界②ー『今昔物語集』ー</td> <td>『今昔物語集』の代表的な説話に触れる。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>軍記物語と「武士」たち</td> <td>軍記物語で代表的な初期作品を紹介する。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>『平家物語』の世界①</td> <td>『平家物語』の紹介と背景について学ぶ。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>『平家物語』の世界②</td> <td>『平家物語』の世界を深く読む。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>『太平記』の世界①</td> <td>『太平記』の基本情報と内容について学ぶ。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>『太平記』の世界②</td> <td>『太平記』の背景を学び、古代から中世の文学史についてまとめる。</td> <td>配布したプリントを読み理解する。またこれまでのプリントをまとめる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンスー文学を学ぶとはー	授業の内容説明と進め方について。	(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。	2	『古事記』と『日本書紀』①	「日本神話」で知られる『古事記』と『日本書紀』に触れる。	配布したプリントを読み理解する。	3	『古事記』と『日本書紀』②	『古事記』と『日本書紀』の違いを学ぶ。	配布したプリントを読み理解する。	4	『風土記』と神話・昔話①	風土記の中で代表的な神話に触れる。	配布したプリントを読み理解する。	5	『風土記』と神話・昔話②	風土記の世界その2。特に「浦島太郎」の話を取り上げる。	配布したプリントを読み理解する。	6	『竹取物語』の世界	「かぐや姫」の物語を原文から触れる。	配布したプリントを読み理解する。	7	『源氏物語』を知る①ー光源氏の物語ー	『源氏物語』の物語に触れる。	配布したプリントを読み理解する。	8	『源氏物語』を知る②ー宇治十帖の世界ー	『源氏物語』後半の物語に触れる。	配布したプリントを読み理解する。	9	説話集の世界①ー『日本霊異記』ー	『日本霊異記』の代表的な説話に触れる。	配布したプリントを読み理解する。	10	説話集の世界②ー『今昔物語集』ー	『今昔物語集』の代表的な説話に触れる。	配布したプリントを読み理解する。	11	軍記物語と「武士」たち	軍記物語で代表的な初期作品を紹介する。	配布したプリントを読み理解する。	12	『平家物語』の世界①	『平家物語』の紹介と背景について学ぶ。	配布したプリントを読み理解する。	13	『平家物語』の世界②	『平家物語』の世界を深く読む。	配布したプリントを読み理解する。	14	『太平記』の世界①	『太平記』の基本情報と内容について学ぶ。	配布したプリントを読み理解する。	15	『太平記』の世界②	『太平記』の背景を学び、古代から中世の文学史についてまとめる。	配布したプリントを読み理解する。またこれまでのプリントをまとめる。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンスー文学を学ぶとはー	授業の内容説明と進め方について。	(事後) 授業で取り上げる作品について、辞書で調べる。																																																																
2	『古事記』と『日本書紀』①	「日本神話」で知られる『古事記』と『日本書紀』に触れる。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
3	『古事記』と『日本書紀』②	『古事記』と『日本書紀』の違いを学ぶ。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
4	『風土記』と神話・昔話①	風土記の中で代表的な神話に触れる。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
5	『風土記』と神話・昔話②	風土記の世界その2。特に「浦島太郎」の話を取り上げる。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
6	『竹取物語』の世界	「かぐや姫」の物語を原文から触れる。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
7	『源氏物語』を知る①ー光源氏の物語ー	『源氏物語』の物語に触れる。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
8	『源氏物語』を知る②ー宇治十帖の世界ー	『源氏物語』後半の物語に触れる。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
9	説話集の世界①ー『日本霊異記』ー	『日本霊異記』の代表的な説話に触れる。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
10	説話集の世界②ー『今昔物語集』ー	『今昔物語集』の代表的な説話に触れる。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
11	軍記物語と「武士」たち	軍記物語で代表的な初期作品を紹介する。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
12	『平家物語』の世界①	『平家物語』の紹介と背景について学ぶ。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
13	『平家物語』の世界②	『平家物語』の世界を深く読む。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
14	『太平記』の世界①	『太平記』の基本情報と内容について学ぶ。	配布したプリントを読み理解する。																																																																
15	『太平記』の世界②	『太平記』の背景を学び、古代から中世の文学史についてまとめる。	配布したプリントを読み理解する。またこれまでのプリントをまとめる。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	gpymyda																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業時のコメント・考察 (60%)、学期末課題 (40%)																																																																		
学生へのメッセージ	古文が苦手になる経験をしたことがあるかもしれませんが、物語とその歴史的背景を踏まえて読むことで、古典世界の面白さを知ることが出来ます。この機会に、現代とは異なる古典の世界へタイムスリップしてみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	ボランティア活動論	科目名 (英文)	Study of Volunteer Activity
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 清
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01426a2		

授業概要・目的
 阪神・淡路大震災（1995）以来、ボランティア活動は、従来の社会福祉の枠を超えて広がり、東日本大震災（2011）以後、その広がり、社会的承認を得ています。しかし、そもそもボランティア活動とは、何なのでしょう。それは、企業の営利活動に対する「ただ働き」でもないし、自己犠牲を伴う「滅私奉公」でもありません。またそれは、自治体また国家「行政の肩代わり」でもありません。災害の現場において、あるいは社会福祉の現場において、ボランティア活動は、どのような社会的・個人的意味をもつのでしょうか。ボランティア活動に関してその多様な意味を問うことは、この社会の中で自分自身の存在を問うことであり、それを通して逆に自分が住んでいるこの社会のあり方を問うことです。この授業では、ボランティア活動の多様な意味に関して、歴史、政治、経済などの枠組みの中で明らかにし、ボランティア活動の基本的知識を身につけることを目標としています。

到達目標
 この授業を履修することによって、受講生は次の点を説明できるようになります。
 (1) ボランティア活動に関して、広い視野から一般的に説明できる。
 (2) ボランティア活動と自分自身とのかかわりに関して説明できる。
 (3) ボランティア活動と自分が生きる社会とのかかわりに関して説明できる。

授業方法と留意点
 WebFolder を使用して、様々な資料を通してボランティア活動の理解を進めます。資料（大学の紀要論文など）に関して、全体的に五回レポートを提出してもらいます。必ず資料を熟読し、課題に臨んでください。

科目学習の効果（資格）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の評価方法に関して確認すると共に、授業の全体的なテーマ及び個別的なテーマに関して概略を述べます。	シラバスを熟読して、授業に臨んで下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。
2	ボランティア活動概論（1）	従来のボランティア活動の定義を紹介し、その問題点を指摘します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
3	ボランティア活動概論（2）	従来のボランティア活動の定義を紹介し、その問題点を指摘します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
4	ボランティア活動の歴史（日本）	日本の歴史においてボランティア活動と類似した活動を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
5	ボランティア活動の歴史（世界）	世界の歴史においてボランティア活動と類似した活動を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
6	ボランティア活動と NPO(1)	阪神・淡路大震災におけるボランティアの働きを具体的に紹介しつつ、行政・企業に対する NPO 誕生の必然性を説明します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
7	ボランティア活動と NPO(2)	東日本大震災におけるボランティアの働きを具体的に紹介しつつ、行政・企業に対する NPO の独自の活動を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
8	ボランティア活動と心理学	ボランティア活動を行う個人的動機、あるいは集団的圧力、また「何故、人を助けるのか」、こうした問題を説明しつつ、議論します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
9	ボランティア活動と社会学（1）	ボランティア活動を行う「私」とは、何者なのか。近代という歴史観から「私」の実態を説明します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
10	ボランティア活動と経済学	A. スミスの自由放任主義以後の J. M. ケインズの福祉国家論、及びその後の自由主義思想を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
11	ボランティア活動と人類学	M. モース及び C1. レヴィ＝ストロースの贈与論を前提にして、ボランティア活動を無償の贈り物とみなす立場を紹介しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
12	ボランティア活動と社会学（2）	ボランティア活動を行う「私」は、何を言い得るのか。被災者、高齢者、障害者、彼らの人権を尊重しつつ、「私」は、どのような「連帯」を形成できるのか、これについて議論します。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
13	ボランティア活動と法律	ボランティア活動は、どのような法的基盤を通していいのか、またどのような法的基盤によってその活動を規制されているのか、これを問題とします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
14	ボランティア活動と農業問題	農業ボランティアの可能性とは何か。繁忙期の農家の手伝いから里山の整備、環境問題まで。その可能性について議論しします。	ネットで今回の授業のテーマを調べて下さい。事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	
15	まとめ	この授業で学習したことを総括的に振り返ります。	事前・事後学習として、ノートのキーワードを整理して自分なりの論理を構成して下さい。	

実務経験
関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	提出されたレポート(20点)×5で評価します。			
学生への メッセージ	ボランティア活動とは何かと問うと、考えれば考えるほど、正体が掴めなくなります。ですから、ボランティア活動論という研究が成立するわけで、一緒にボランティアについて考えてみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前事後の総学習時間の目安は、60時間です。 質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	南 慎二郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01427a2		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 経済学は特に近代以降の科学や産業の発展と共に進歩してきた学問であり、私たちの社会の豊かさや直面する課題解決(貧困、社会保障、環境問題など)を求めていく上で、経済学の考え方やそれに基づく政策は密接に関わっています。本講義では経済学の歴史に即して基礎的な考えを学習した上で、現実の具体的な動向や問題のトピックを通じて理解を深めていきます。</p> <p>【講義の目標】 一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えられるようになることが目標です。</p>
---------	--

到達目標	一般教養としての経済学の知識を俯瞰的に把握し、その知識に基づいて社会経済や時事問題を理解して自らで考えることができる。
------	---

授業方法と留意点	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。
----------	---------------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	はじめに:講義の全体や進行について 経済学の一般的な考え方、経済学史の流れ	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
2	経済循環をめぐる歴史①:主に古典派経済学とマルクス	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
3	経済循環をめぐる歴史②:シュンペーター	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
4	価値や価格はどのようにして決まるか:価値説と限界効用説、リカードから新古典派へ	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
5	ケインズ革命:ケインズの研究・思想とその影響について	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
6	現代経済学の概観:戦後の経済学の流れ、現代の経済学派の関係	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
7	制度学派:現実社会の制度(慣習や経験・心理に影響される人間行動を含む)を重視する経済学の系譜	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
8	行動経済学:認知心理学をベースとした新たな経済学の展開	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
9	戦後の日本経済史:私たちが生活している社会経済の背景として	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
10	労働について:雇用と賃金の決まり方、日本の労働市場、格差や雇用形態や労働災害の問題	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
11	公害・環境問題について①:利潤追求と節約、外部性と社会的費用、環境問題に対する経済学的アプローチ	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
12	公害・環境問題について②:日本の公害・環境問題の歴史と教訓、具体的な環境問題で考えてみる	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
13	地域と経済:経済学の視点による地域の捉え方や地域発展・地域経済振興のあり方について考えてみる	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
14	経済学と政府の役割:社会保障制度と福祉国家の盛衰、市場の失敗と政府の失敗	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)
15	まとめとして:これまでの講義の振り返り、社会を見る手がかりとしての経済思想	配布するレジюмеや板書・スライド資料による講義。		・講義で使用した資料による復習。(30分) ・シラバスおよび講義中に示した参考文献による自習。(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門 経済学の歴史	根井雅弘	筑摩書房(ちくま新書)
	2	日本経済論	宮川努、細野薫、細谷圭、川上淳之	中央経済社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義期間中に実施する小レポート 40%。 (新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、定期試験はレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります、その際は別途連絡する。)			
学生への メッセージ	経済学というと競争社会での合理性や効率性を追求するといった冷たいイメージも伴いますが、現実の社会を取り扱うものですから、道徳倫理や公正を重視して、万人の幸福や厚生を求める思想も根幹に持ちます。農学であれば貧困問題に直結する食糧供給や食生活・文化の豊かさとの関係がある仕事ですので、経済学の知識やその思想を学んでおくことは有意義といえます。経済学や数学の予備知識を前提とはせずに授業進行を行います。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	授業時間内に口頭もしくは紙により質問を受け付けるようにし、次回講義時にフィードバックします。 授業時間外の質問についてはメール等で対応します(初回時にアナウンス)。			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01428a2		

授業概要・目的
人間が集団で生活している限り、法や条例、環境、貿易協定の影響を避けて生きることはできません。それらを決定・介入するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。こうしたことは、人間の私的な領域まで積極的に介入してくる福祉国家のなかで環境や国内外の市場に関わろうとする農学部の皆さんには、より深刻な事実として突きつけられる事柄でしょう。この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治と政治学についての基本的な知識・技能を与えることを一番大きな目的にしています。政治学の中でも、もっとも基本的な事柄である日本政治史、政治体制論、政治過程論、国際政治にあたる内容を授業する予定です。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。

到達目標
この授業を通じて学生は、日本の政治・政治学についての基本的な知識・技能を獲得し、いかなる法・政策・立候補者が望ましいか理性的・論理的に判断し、政治に積極的に参加する中でそれを表明していくという政治・政治学に関する思考力・判断力・表現力を育成することができます。

授業方法と留意点
オンライン授業で行います。

科目学習の効果 (資格)
公務員試験や就職活動において、日本の政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。また現在でも一人の有権者として政治参加するさいに、判断材料として政治的な事柄について知っておく必要があります。そうした事柄に対応し、身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、基本的な政治的知識・技能を獲得し、そのメリット・デメリットを判断し、政治的意見として表明することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～政治とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。
2	政治と権力～政治とは何か? 正当な権力とは何か?	身近な日常生活で現れる政治と、マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性とは何かを考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
3	国家と政治システム～システムとは何か?	政治システムとはどういう構造になっているのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
4	デモクラシー～デモクラシーの条件とは何か?	さまざまな政治システムがあるなかで、戦後の日本政治の基礎になっているデモクラシーとはいかなる政治システムなのか考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
5	戦前の日本の政治体制～天皇制と日本が戦争へと向かった理由	戦後の日本政治とはまったく異なる戦前の政治体制について授業します。また軍部を戦前の政府が抑えられなかった理由を映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
6	マスメディアと世論①～政治文化と初期の世論研究	世論と政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
7	マスメディアと世論②マスメディアの役割とは何か?	マスメディアの役割とそのさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
8	選挙と政党～中選挙区制から小選挙区比例代表並立制へ	日本の選挙制度を中心に、選挙と政党制について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
9	国会と内閣～議院内閣制と今世紀の行政改革	行政改革による内閣の権限強化を中心に、日本の国会と内閣について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
10	国際政治の二つの観点①～アイディアリズム	国際連盟から国際連合への経過について授業します。また国際連盟から離脱したときの日本の状況について映像資料を見て考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第七章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
11	国際政治の二つの観点～リアリズム	東西冷戦の基盤となるリアリズムの考え方について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
12	冷戦終結後の日本外交①～	冷戦終結後の新しい国際秩序を開くこ	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マ	

		湾岸戦争とその結果	とになった湾岸戦争と日本政府の対応について授業します。	メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	13	冷戦終結後の日本外交②～米国同時多発テロとアフガニスタン戦争、イラク戦争	米国同時多発テロをきっかけに生じたアフガニスタン戦争と後のイラク戦争と日本の新法作成について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	14	冷戦終結後の日本外交③～安全保障体制の転換	集団的自衛権の行使の閣議決定を中心に、近年の日本外交の転換について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第八章)を読み、メディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。
実務経験				
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、日本史、世界史など。大学の政治学、社会学、国際政治など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2	18歳から考える日本の政治	五十嵐仁	法律文化社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	レポートで評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、政治・政治学についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安藤 由香里
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01429a2		

授業概要・目的	本授業は、法が「日常生活」および「医療従事者」としてどのような機能を果たしているかについて「楽しく」学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 社会における法の役割について理解する。 2. グローバルな視野を身につけるために多様な事象を考察する。 3. 批判力および分析力を養うために、参加型講義を実施する。
授業方法と留意点	教科書以外にも授業中に適宜参考資料を紹介する。 毎回、予習・復習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認すること。
科目学習の効果(資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、医療従事者としての社会生活、そして日常生活に必ず役立ちます!

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	法ってなんだろう?	遠隔授業(教材・課題提供型授業)にて実施する。講義の目的、進め方、成績評価/私たちの生活と法	評価の時期・方法・基準の項も参照のこと
	2	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(1)	基本的人権、プライバシー、自己決定権、信教の自由	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	3	人間らしく生きる権利の保障-基本的人権(2)	表現の自由、生存権、法の下での平等	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	4	現代行政における国民	外国人の権利、入国管理	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	5	すべては契約から	契約の自由、損害賠償、住まいと法律	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	6	いろいろな決済方法	クレジットカード、連帯保証、自己破産	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	7	家族と法-結婚・離婚	法律婚、事実婚、離婚、親権、監護権	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	8	家族と法-親子関係	扶養、相続、遺言	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	9	日常生活のアクシデント-交通事故	交通事故、自動車、自転車	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	10	日常生活のアクシデント-医療事故	インフォームドコンセント、医療過誤	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	11	日常生活のアクシデント-製造物責任・悪徳商法	クーリングオフ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	12	罪と罰-犯罪(1)	脳死・臓器移植、インフォームドコンセント	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	13	罪と罰-犯罪(2)	インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死と刑法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	14	労働・社会保障と法	労働契約、解雇・失業、子育て、介護	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例(事件・ニュース)を新聞等で確認
	15	総括	Moodle からテスト	

実務経験	
関連科目	日本国憲法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学概論-身近な暮らしと法	國友順市、畑雅弘(編著)	嵯峨野書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	1 限開講: de9f3wq 2 限開講: 2gj9h62
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	1. Moodle からテスト 50% 2. 課題を Moodle に提出する。50% COVID-19 の状況によりレポートの活用による学修評価等、現記載の評価法等を変更する場合があります。
学生へのメッセージ	毎週金曜授業開始時間までに Moodle に講義資料および課題をアップしますので、翌週火曜 23:59 までに Moodle に課題を提出してください。 法は、私たちの生活のどこにでも常に関わってくる問題です。 医療従事者として知らないではすまされない基礎知識があります。 本講義を通じて、そのことを実感し、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。
担当者の研究室等	Email: yukari.ando@edu.setsunan.ac.jp

備考	<ol style="list-style-type: none">1. 講義前の予習（教科書を読む。1時間×15回）2. 復習（講義の重要事項をまとめる。1.5時間×15回）3. 自己学習（講義に関連する新聞記事を読む）
----	---

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北 真収
ディプロマポリシー (DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01430a2		

授業概要・目的	経営学の基本について全体を網羅して講義を行います。授業で紹介する代表的な事例を通じて、経営学への理解を深めます。企業での企画調査やコンサルティングの実務経験を講義に取り入れます。
到達目標	経営とは何か、何が課題なのかなど、現実即して経営への疑問を広く理解することが目標です。
授業方法と留意点	事例を紹介しながら経営知識を講義します。理解を助けるためにDVDなども活用します。 学習課題への返答を求めると参加を重視します。 授業形態はTeamsを使用。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の流れ、進め方、事例紹介、成績評価について説明します	事前：シラバスを読んでおく 事後：講義内容を復習する
2	企業と社会	企業の社会的責任を中心に講義します	事前：教科書の1章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
3	企業の種類	私的企業、公的企業について講義します	事前：教科書の2章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
4	企業理念と企業文化	企業理念や企業文化の形成について講義します	事前：教科書の3章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
5	企業統治	経営者を規律づけるしくみ (ガバナンス) を学びます	事前：教科書の4章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
6	企業倫理	不祥事を未然に防ぐことについて考えます	事前：教科書の5章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
7	企業戦略、競争戦略	企業の成長、競争に打ち勝つ考え方を説明します	事前：教科書の6章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
8	企業財務	資金の調達、運用について説明します	事前：教科書の7章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
9	合併・買収 (M&A)	合併・買収の意義や効果を考えます	事前：教科書の8章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
10	イノベーション	新しい事業の創出、そのプロセスについて講義します	事前：教科書の9章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
11	マーケティング	製品やサービスの販売 (対象や価値伝達) に関して学びます	事前：教科書の10章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
12	組織の構造	企業が活動できるしくみを学びます	事前：教科書の11章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
13	ものづくり	多品種少量生産を中心にものづくりの発展について学びます	事前：教科書の12章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
14	仕事と生活の調和	ワークライフバランスの必要性、多様な働き方について考えます	事前：教科書の13章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)
15	国際経営	グローバルな経営組織や経営の現地化について講義します	事前：教科書の14章を読んでおく (1時間) 事後：講義内容を復習する (1時間)

実務経験	
関連科目	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実践に学ぶ経営学	風間信隆・松田健編著	文真堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	1 限開講：5k0mskk 2 限開講：rhmw6f8
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート50%、小テスト50%で評価します。
学生へのメッセージ	代表的な事例を使って経営知識を解説します。事例に興味を持って取り組んでください。
担当者の研究室等	寝屋川11号館8階 北 真収研究室 (相談時は事前に連絡してください)
備考	

科目名	観光学	科目名 (英文)	Tourism Studies
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金 志善
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	OS01431a2		

授業概要・目的	本講義では、観光の概念について理解し、観光学の基礎的な専門知識を習得することを目的とします。観光は、今やグローバル産業と言われるまでに大きく成長しました。国内では、訪日外国人が3000万人に達成したことや、東京オリンピックによる経済波及効果が地域活性化にも繋がるなど観光への期待が膨らんでいます。そこで、この授業では、観光の歴史、文化そして経済的側面からその潜在力を捉え、多様な観光産業との関わりやその果たす役割を包括的に理解することを期待します。
到達目標	①観光の歴史的發展を概観しながら、観光産業の機能と役割について理解できる。 ②観光を捉えるための基本的な考え方、社会情勢などの基礎的な知識を身につけることができる。 ③国内観光、海外旅行、外国人の訪日旅行等の現状を理解し、その要点を説明できるようになる。
授業方法と留意点	・講義中心 ・課題（調査、レポートなど） 毎回2時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
科目学習の効果(資格)	観光地で起きている問題を自らの課題として考え、自ら関わろうとする態度を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	観光の概念	授業の進め方の説明の後、観光の基礎的な概念について学習します。	これまで思い出に残る旅の経験を列挙する。事前学習1時間、事後学習1時間。
2	観光の歴史	人はなぜ旅行に行くのだろうかについて学び、旅のかたちの変遷を学習します。第1回レポートを課します。	産業革命以降、人々を運送する手段が発展し、今日に至っている。当時どのような交通手段があったかを調べておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。
3	宿泊業(1)	日本のホテルの発達史を学び、現在の宿泊業の特徴と役割を理解します。	日本のホテルの今後の方向性について考えをまとめる。事前学習1時間、事後学習1時間。
4	宿泊業(2)	ホテルチェーンの現状と宿泊業務の基礎について学習します。	興味を持っている外資系ホテルチェーンに関して、ネットなどでその歴史と現状について調べてくる。事前学習1時間、事後学習1時間。
5	旅行業	旅行業の仕組みと旅行業の商品について学習します。旅行商品の成り立ち、流通、販売の機能を学び、商品を販売する立場で企画してみます。第2回レポートを課します。	旅行業の役割や機能をまとめておくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。
6	地域におけるSDGsとは	SDGsとは何かについて学び、企業がSDGsに取り組むべき課題などについて学びます。	なぜSDGsは注目されるのかについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。
7	運輸業	航空会社・空港・鉄道について学習します。航空会社の歴史と企業が現在置かれている状況をサービス、格安航空会社の台頭などから理解して行きます。第3回レポートを課します。	格安航空会社(LCC)について調べる。事前学習1時間、事後学習2時間。
8	メディカルツーリズム	アジアにおけるメディカルツーリズムの現状と各国の事例について学習します。	日本においてメディカルツーリズムが難しい理由について調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。
9	オーバーツーリズム	オーバーツーリズムとは何か、また、それが地域住民・観光客に及ぼす影響と今後求められる対応策について学習します。第4回レポートを課します。	観光公害の問題点について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。
10	統合型リゾート(IR)	統合型リゾート(IR)とは何か。日本のIRの現状と世界のIRについて学習します。	統合型リゾート(IR)の課題、その対策などについて調べる。事前学習1時間、事後学習1時間。
11	観光マーケティング	マーケティングとは何か、観光にマーケティングがなぜ必要なのかについて学習します。第5回レポートを課します。	事前に配布する資料を事前に読んでおくこと。事前学習1時間、事後学習2時間。
12	観光業の環境分析	観光業の環境分析、SWOT分析について学習します。	SWOT分析について復習しておく。事前学習1時間、事後学習1時間。
13	ダークツーリズム	ダークツーリズム概念の登場と拡散について事例を挙げて紹介します。	ダークツーリズムの役割について調べておく。事前学習1時間、事後学習2時間。
14	コンテンツツーリズム	コンテンツツーリズムによる地域振興について学習します。	アニメツーリズムについて調べておく。事前学習1時間、事後学習1時間。
15	これまでのまとめ	テストを実施します(1~13回)。 観光の発生過程から現在の発展へのプロセスを学習します。観光のもたらす影響にはどのようなプラスとマイナス面があったか復習します。	これまでに学んだ内容を復習しておく。事後学習2時間。

実務経験																	
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代観光総論	前田勇	学文社
	2	入門観光学	竹内正人	ミネルヴァ書房
	3	新・観光学入門	中村忠司・王 静	晃洋書房
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	38ursel			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールを利用			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	テスト 50%、5回の課題レポート 50% 本授業では、専門に関わる確かな知識・技能を身につけるために、レポートにより課題を出す。レポートは、授業中に提示した課題について、5回提出する。			
学生への メッセージ	楽しく観光を学びましょう。			
担当者の 研究室等				
備考	非常勤講師室（相談可能時間：月曜日 12時30分～13時10分） stellakim0217@gmail.com			

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる(統計学などの)応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	課題演習で30% レポート70%の合計によって判断する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	友枝：寝屋川学舎3号館3階(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp
----------	---

備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。
----	--

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	清水 達郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1○		
科目ナンバリング	ONA1433a2		

授業概要・目的	教養数学では、農学部の専門的知識を学ぶ上で必要となる(統計学などの)応用数学と言われる知識を修得するための基礎的・基本的な数学の知識や考え方を扱う。それらを学び、理解することを通じて、論理的思考能力・判断力・表現力といった、農学部を含む理系学部生一般に求められる素養を身につける。さらにそのような数学的素養を活かし、農学領域やそれを取り巻く様々な分野に対しても応用できるような基本的技能を習得することをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 微積分の基本的計算を行うことができる。 (2) 簡単な微分方程式を解くことができる。 (3) 基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。理解の促進と達成の度合いをみるため課題演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	微分法の基本	・接線と微分係数 ・導関数	課題レポート
	2	微分法の基本	・微分計算の公式 ・1次近似式	課題レポート
	3	微分法の基本	・関数の増減 ・関数の凹凸 ・関数のグラフ	課題レポート
	4	微分法の基本	・速度と加速度 ・運動量保存則	課題レポート
	5	指数関数と対数関数	・指数法則と対数法則	課題レポート
	6	指数関数と対数関数	・グラフ	課題レポート
	7	指数関数と対数関数	・簡単な微分方程式	課題レポート
	8	三角関数	・三角関数の復習 ・グラフ	課題レポート
	9	三角関数	・加法定理 ・三角関数の微分	課題レポート
	10	不定積分	・基礎的な公式	課題レポート
	11	不定積分	・置換積分 ・部分積分	課題レポート
	12	定積分	・不定積分と定積分 ・面積と定積分	課題レポート
	13	定積分	・定積分の計算 ・置換積分と部分積分	課題レポート
	14	定積分	・表面積と回転体の体積	課題レポート
	15	微分方程式	・変数分離型 ・1階線型	課題レポート

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	確率・統計のための数学基礎	小林俊公・島田伸一・友枝恭子	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	課題演習で30% レポート70%の合計によって判断する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。日々継続することで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	友枝: 寝屋川学舎3号館3階(数学研究室) tomoeda@mpg.setsunan.ac.jp 清水: (質問等は講義の前夜、またはメールでの連絡が望ましいです)shimizu@kurims.kyoto-u.ac.jp
----------	---

備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説する。
----	--

科目名	生命倫理	科目名 (英文)	Bioethics
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	椎名 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	ONA1434a2		

授業概要・目的	農学の学びにおいて「総合科学」の基礎となる幅広い知識の獲得に加え、倫理観をもった豊かな人間性を涵養する教育が必要であり、農学分野における生命科学の倫理的配慮が社会的、科学的、技術的側面などから求められている。中でも、農学分野において、ゲノム解析、各種細胞の研究利用、遺伝子組み換えによる品種改良など生命に係る技術利用が行われ、人類に有益な結果をもたらす一方で、予期せぬ有害な影響なども予測される。したがって、本授業では、生命科学分野で配慮されるべき生命倫理観及びその行動を学ぶ。「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」など根源的な問いに向き合いながら、農学における生命科学の最新技術をヒトや地球環境に及ぼす影響を考察しながら、倫理的行動について学修することを目的としている。
到達目標	① 現在の生命倫理に関する諸問題についての視点や基準および課題を理解する。 ② 遺伝子操作やゲノム編集などの先端技術の実際を学修し、その活用法に関する倫理規範などについて身につける。 ③ 生命の誕生および死について学修し、それらの倫理観を身につける。
授業方法と留意点	授業方法は、パワーポイントと板書を用いて講義を行う。講義の理解度ををはかるために、毎回、理解度確認小テストを実施する。事前・事後学習課題については、シラバスに記載している。なお、オンラインでの授業を行う場合もある。その場合、教科書と事前配布する資料プリントを使い、Teams を利用して行う。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ニュースや新聞で見る生命倫理	事後：授業内容の復習、事後レポート
2	5. 生殖補助医療技術 12. 人体の資源化、商品化 SGDs-3, 5, 16	生殖補助医療技術、出自を知る権利について考える 人体の卵子、精子の資源化、商品化について考える グループディスカッション、グループワーク、講義	事前：テキストの予習(5, 12章)、事前レポート 事後：テキストの復習(5, 12章)、事後レポート	
3	6. 出生前診断、着床前診断 7. 優生思想 27. 病者への差別と排除 SGDs-3, 5, 16	出生前診断、着床前診断について考える 優生思想と病者への差別と排除について考える グループディスカッション、グループワーク、講義	事前：テキストの予習(6, 7, 27章)、事前レポート 事後：テキストの復習(6, 7, 27章)、事後レポート	
4	9. 医療資源の配分 10. 国際的生命倫理 11. 脳死と臓器移植 12. 人体の資源化、商品化 SGDs-3, 10, 16	医療資源の配分と国民医療費について考える 臓器移植と移植ツーリズム および人体の臓器の資源化、商品化について考える グループディスカッション、グループワーク、講義	事前：テキストの予習(9, 10, 11, 12章)、事前レポート 事後：テキストの復習(9, 10, 11, 12章)、事後レポート	
5	16. インフォームド・コンセント SGDs-3	患者の権利とインフォームド・コンセントについて考える グループディスカッション、グループワーク、講義	事前：テキストの予習(16章)、事前レポート 事後：テキストの復習(16章)、事後レポート	
6	18. 医療倫理の四原則 SGDs-3	患者の権利と医学研究の歴史、研究倫理について考える グループディスカッション、グループワーク、講義	事前：テキストの予習(18章)、事前レポート 事後：テキストの復習(18章)、事後レポート	
7	14. 安楽死・尊厳死 SGDs-3	安楽死と尊厳死について考える グループディスカッション、グループワーク、講義	事前：テキストの予習(14章)、事前レポート 事後：テキストの復習(14章)、事後レポート	
8	15. 終末期医療 SGDs-3	終末期医療と quality of life (QOL) について考える グループディスカッション、グループワーク、講義	事前：テキストの予習(15章)、事前レポート 事後：テキストの復習(15章)、事後レポート	
9	ヒト以外の生命 1 コンパニオンアニマルとペット産業	動物の生命と愛護について考える。 視点1 人の暮らしとコンパニオンアニマル 視点2 コンパニオンアニマルとペット産業	事前：テキストの予習(21章) 事後：テキストと配布資料の復習(21章)、事後レポート	
10	ヒト以外の生命 2 産業動物と野生動物	産業動物と野生動物の生命を考える。 視点1 産業動物と食肉産業 視点2 野生動物の生と死	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート	
11	命の連鎖と文明	文明と自然観、生命の連鎖について考える。 視点1 文明と自然観・生命観の多様性 視点2 生態系と生命の連鎖。	事前：テキストの予習(23, 24, 30章) 事後：テキストと配布資料の復習、事後レポート	
12	農業・環境・食 1 遺伝子組換え農業	遺伝子組換え農業の現状を整理し、今後について考える。 視点1 遺伝子組み換え農業が生み出す利点 視点2 安全性をどう考えるか	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート	
13	農業・環境・食 2 環境倫理	人間活動が地球環境に与える負荷 (Human impact) について考える。 視点1 地球全体の利益と個人 視点2 将来世代との関係 (世代間の公正)	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート	
14	業・環境・食 3 フードファディズム	食と健康の関係を考える。 視点1 効能の評価	事前：配布資料の予習 事後：配布資料の復習、事後レポート	

			視点2 食品産業の役割	
	15	まとめ	ケーススタディー 「食と生命倫理」 「農業ビジネスと生命倫理」	事前：これまでの学修の復習 事後：レポート作成と提出
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テーマで読み解く生命倫理.	小泉博明ら編著	教育出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	別途、指示する		
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード	m4j7nnz			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業内のグループワークの成果物、各回のレポートやMoodle等での課題の提出とその内容 50点、最終レポート50点。100点満点の60点以上で合格。なお、取り組み状況（受講態度、レポート、課題の提出など）が不良である場合、最大10点を減点する場合がある。			
学生への メッセージ	<p>●心構え 本科目の目標は「ヒトの生死や生命とは何か」、「人間とは何か」など根源的な問いに向き合いながら「倫理観を身につける」ことである。この目標は、学生自身が「ものの見方」「考え方」「感じること」について意識して講義に臨まなければ「達成できた」と感じられるものではない。講義は、生命倫理に関する社会的問題について、考えるきっかけやテーマを与え、グループワーク（チーム）を通じ、考え、発言し、他者の意見を聴き、あらためて考え、振り返るという流れで行う。このため、受け身で聴く形式ではないことを認識し、自分の頭で考え、さらにチームでの多様な意見を聴き、感じることを【意識して】臨んでほしい。</p> <p>●講義1回目の注意点 1. グループをつくり、チームビルディングを行う。 2. 講義時にシラバスを使用するので、シラバスを印刷して持参すること。 3. Moodleの登録を行うので、各自電子媒体（スマートフォン、タブレット等）を持参すること。なお、電子媒体を持っていない場合には、1回目の時に申し出ること（課題提出にMoodle登録が必要になる。）。</p> <p>●講演会聴講 土曜日等に学外者（患者会代表）の講演を聴講させる。事前に連絡するので必ず聴講すること。</p> <p>●レポート、課題提出の注意点 自らの考えをまとめ、わかりやすい文章を作成することを心掛ける（その文章表現で、自分の主張は相手に正しく伝わるのか？）小中高校で学んだ文章作成の基本（主語述語の関係等）を確認し、必ず読み直してから提出すること。</p> <p>●メッセージ 医療や農業技術の発展に伴う倫理的問題や生と死に関わる問題には「明確な答えが見いだせない」ことがほとんどです。この科目で扱う内容は、ここで学べば（単位を修得すれば）それで終了という問題ではありません。人類が、今後自らが開発する技術をどのように未来に向けて活かしていくのか。本講義は持続可能な開発目標であるSGDsの3, 5, 10, 16とも関連します。技術も日々飛躍的に発展し、人々の考え方も多様に変化する中で、「農学分野における生命科学への配慮と行動」が出来るようになるため、講義では自身が主体となってチームで考えることを心掛けてください。</p>			
担当者の 研究室等 備考	植物分子生理学研究室			

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Design I
学部	農学部	学科	食農ビジネス学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP6◎, DP7◎, DP8◎		
科目ナンバリング	OCA1438a2		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン II、キャリアデザイン III、インターンシップ I、インターンシップ II、エンプロイメントデザイン I、エンプロイメントデザイン II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			